

2011年度
新潟大学教育学部 年報
THE FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY

ANNUAL REPORT

10

目 次

1 イベント・カレンダー

- 1. 1 教育学部…………… 1
- 1. 2 附属学校…………… 2

2 特色ある教育活動

- 2. 1 教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要…………… 4
- 2. 2 「フレンドシップ実習」の概要…………… 6
- 2. 3 「入門教育実習」…………… 7
- 2. 4 「研究教育実習」…………… 9
- 2. 5 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業……………11
- 2. 6 教育実習……………12
- 2. 7 介護体験……………13
- 2. 8 「キャリアデザイン論」……………15
- 2. 9 インターンシップ
 - ・学校インターンシップ……………16
 - ・企業等インターンシップ……………17
- 2. 10 各課程の特色ある教育活動……………20
- 2. 11 高校生対象体験講義……………35
- 2. 12 中・高校生及び保護者の大学見学……………36

3 就職支援

- 3. 1 教員志望学生向け特別講座……………37
- 3. 2 教員採用選考検査対策（体育実技）練習会……………38
- 3. 3 2年次生向けキャリア支援ガイダンス……………39
- 3. 4 公務員・一般企業志望学生向けガイダンス……………40
- 3. 5 臨時教員希望者への就職支援……………41
- 3. 6 教員採用試験受験者向けガイダンス（3年次生向け）……………42
- 3. 7 教員採用・就職活動バス支援……………43
- 3. 8 教育学部就職情報ホームページ……………44

4 学部FD・SD……………45

5 地域貢献

- 5. 1 12年研修……………47
- 5. 2 市民・教員を対象とした公開講義……………48
- 5. 3 教育委員会との連携事業……………49
- 5. 4 新潟大学免許法認定公開講座……………50
- 5. 5 委員等就任状況……………51

6 国際交流

- 6. 1 学部教育の国際化事業.....54
- 6. 2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）.....55

7. 附属施設の活動

- 7. 1 新潟小学校.....59
- 7. 2 新潟中学校.....62
- 7. 3 特別支援学校.....65
- 7. 4 幼稚園.....68
- 7. 5 長岡小学校.....71
- 7. 6 長岡中学校.....75

8 外部資金

- 8. 1 科学研究費助成事業.....76
- 8. 2 寄附金.....77
- 8. 3 受託研究および受託事業.....77
- 8. 4 共同研究.....78

9 教員・教育研究業績

[巻末資料]

- 入学状況（学部）..... 107
- 入学状況（大学院）..... 108
- 就職状況..... 109
- 附属学校在学状況..... 110

1 イベントカレンダー

1.1 教育学部

月	日	事 項
4月	5日	新潟大学入学式、学部新入生保護者懇談会
	6日	大学院教育学研究科新入生ガイダンス 学部学年別ガイダンス（1年次、3年次）
	7日	学部学年別ガイダンス（2年次、4年次）
	11日	第1学期開始
	16日	第52回黎明祭
	26日	教採合格ガイダンス（4年次学生向け）
6月	1日	新潟大学永年勤続者表彰式
	6日	春期教育実習（～6/17）
	11日	現職教員のための大学院説明会・個別相談会
	16日	学部後援会役員会
	26日	新潟県職員採用試験
	29日	新潟大学名誉教授称号授与式
7月	2日	学部後援会理事会・総会 新潟市教員採用試験（～7/3）
	3日	新潟県教員採用試験
	20日	愛知県・名古屋市教採・就活バスツアー（～7/22）
	24日	教員免許状更新講習（～8/26）
	25日	第1学期定期試験（～7/29） 社会教育主事講習（～8/19）
	29日	教職12年経験者研修（～8/19）
	2日	免許法認定公開講座（～9/11）
8月	4日	新潟県教育委員会との連携協議会
	7日	新潟大学オープンキャンパス（主に受験生向け）（～8/8）
	11日	夏期休業（～9/30）
	11日	学校図書館司書教諭講習（～8/26）
	5日	観察参加実習（～9/9）
9月	7日	大学院教育学研究科入学試験
	20日	秋期卒業式
	21日	大学院教育学研究科入学試験合格者発表
	27日	2年次学生向け就職ガイダンス（学校教員養成課程）
	28日	2年次学生向け就職ガイダンス（新課程）
	29日	全学就職総合ガイダンス
	30日	3年次学生向け教採ガイダンス
10月	1日	秋期入学式、第2学期開始
	15日	新潟大学Week（～10/22） ※展示・鑑賞：うちのDEアート、ジュリアード弦楽四重奏団コンサート、 パフォーミングアート、「百花繚乱」
	24日	秋期教育実習（～11/4）
11月	19日	推薦入試（健康スポーツ科学課程、芸術環境創造課程）・社会人特別入試入学試験 養護教諭特別別科入学試験
	24日	教育実習運営協議会
12月	6日	推薦入試（健康スポーツ科学課程、芸術環境創造課程）・社会人特別入試入学試験合格者発表 養護教諭特別別科入学試験合格者発表
	10日	推薦入試（学校教員養成課程）入学試験
	14日	新潟市教育委員会との教育懇談会
	23日	冬期休業（～1/6）
1月	10日	授業開始
	14日	大学入試センター試験（～1/15）
	19日	教育学部同窓会と教育学部との懇談会・懇親会
	26日	東京の学校見学バスツアー（～1/28）
	30日	全学同窓会と新潟大学との懇談会・懇親会 大学院教育学研究科（第2次募集）入学試験
2月	1日	第2学期定期試験（～2/7）
	6日	推薦入試（学校教員養成課程）入学試験合格者発表
	9日	大学院教育学研究科（第2次募集）入学試験合格者発表
	25日	新潟大学入学試験(前期日程)（～2/26）
3月	8日	新潟大学入学試験（前期日程）合格者発表
	11日	春期休業（～3/31）
	12日	新潟大学入学試験（後期日程）
	15日	学部後援会理事会
	22日	新潟大学入学試験（後期日程）合格者発表
23日	新潟大学教育学部学位記授与式・修了式	

1.2 附属学校

《 附属新潟小学校 》			《 附属新潟中学校 》			《 附属特別支援学校 》		
月	日	事 項	日	事 項	日	事 項	日	事 項
4	8	1学期始業式・入学式	7	着任式、始業式	7	第1学期新任式、始業式、入学式		
			8	入学式	15	P T A総会		
			12	新入生歓迎会	20	高等部3年生修学旅行(大阪方面)～22日		
			25	学力検査	22	中学部遠足、高等部1・2年生校外学習		
			26	生徒総会	28	小学部遠足		
5	2	全校参観日	14	ときわ体育祭	2	対面式		
	21	附属大運動会	31	新潟市体育大会(～6月1日)	12	校舎増改築記念竣工式		
	31	中条自然教室(4年)(～5/1)			17	第1回避難訓練(地震想定)		
					28	運動会、入門教育実習①、P T A懇親会		
6	6	春季教育実習(～17日)	6	春期教育実習(～17日)	1	開学記念日		
	10	全校五頭登山	20	演劇鑑賞教室	6	春期教育実習開始～17日		
	23	全校参観日	29	新潟地区陸上大会(～30日)	20	高等部インターンシップ期間～7月15日		
					23	学校説明会		
					30	中学部校内宿泊学習～7月1日		
7	11	佐渡自然教室(5年)(～13日)	5	新潟地区各種大会(～6日)	5	学校説明会②		
	22	1学期終業式	14	通信陸上大会	8	第1回学校評議員会		
	27	市陸上記録会	21	1学期終業式	22	第1学期終業式		
			22	全学年懇談会(25日)	27	小サマースクール		
			26	県総合体育大会(～27日)	28	高等部校外宿泊学習		
8	5	新潟市水泳記録会	4	北信越総合体育大会(～5日)	1	中学部サマースクール		
	30	2学期始業式	17	全国中学校体育大会(～25日)	25	高等部登校日～26日(金)		
			18	県内附属学校園合同部会	26	小学部サマーレク		
			25	2学期始業式	27	卒業生を囲む会		
9	5	2年次観察参加実習(～9日)	5	2年次教育実習(～9日)	1	第2学期始業式		
	5	立山自然教室(6年)(～8日)	23	演劇発表会	7	県特別支援学校スポーツ大会(ビッグスワン)		
	22	クロスカントリーinははの森			8	中学部校外宿泊学習(胎内方面～9日)		
					12	避難訓練②		
				21	小学部2・3組校内宿泊学習			
10	22	附属ミュージアム	6	新潟市総合体育大会	21	第34回特別支援教育研究会		
	22	秋季教育実習(～11月4日)	14	秋の教育研究発表会	24	秋期教育実習～11月4日		
			24	秋期教育実習'(～11月4日)				
11	26	附属ミュージックステーション	6	学校説明会	7	高等部インターンシップ期間～12月8日		
			26	音楽のつどい	18	全国女子体育研究大会新潟大会		
			30	生徒会立会演説会	28	入学者選考		
12	3	新1年生入学選考(6日)	2	全学年懇談会(～7日)	14	中学部校外学習		
	20	2学期終業式	10	入学選考検査(結果発表18日)	16	高等部校外学習		
			22	2学期終業式	22	第2学期終業式		
1	10	3学期始業式	6	3学期始業式	10	第3学期始業式		
			27	冬の教育研究発表会	12	中学部アカデミーショー発表会		
			30	3学年進路懇談会(～2月1日)	17	新入生保護者説明会		
				22	高スキー・そり教室(ニノックス)			
2	9	初等教育研究会(～10日)	7	2学年沖繩の旅(～10日)	4	すなやま祭		
	28	高学年スキー授業(6年)	23	1学年東京巡検(～24日)	10	小学部そり教室：ニノックス		
	29	高学年スキー授業(5年)	28	同窓会入会式	14	中学部体験入学		
					15	高等部体験入学		
				16	小学部体験入学			
				17	中学部スキー・そり教室			
3	6	六年生を送る会	5	第64回卒業証書授与式	2	小学部6送会、中・高等部3送会		
	19	3学期終業式	7	公立高校一般選抜検査	15	卒業証書授与式		
	21	卒業証書授与式	16	3学期終業式	16	第3期終業式		
			26	離任式	26	離任式		

《 附属長岡小学校 》

《 附属長岡中学校 》

《 附属幼稚園 》

日	事 項	日	事 項	日	事 項
8	着任式, 始業式, 入学式	8	着任式, 始業式, 入学式	8	1学期始業式
18	全校仲良しの会	11	2・3年PTA、学校運営説明会	11	入園式
20	全校学習参観日	15	身体測定	19	こんにちはの会
		22	PTA・後援会総会		
		26	学年活動(遠足)		
13	緊急連絡網・メール配信テスト	11	県内附属教頭・研究主任会	17	春遠足
18	発見遠足	13	生徒総会①	21	土曜家族参加日
20	避難訓練①(校舎合同)	20	校舎合同非難訓練		
22	日曜参観日, 百年の森整備作業	29	PTA校舎ソフトボール大会		
6	春期教育実習(～17日)	6	春期教育実習(～17日)	1	大学の先生による講演会
7	初任者研修①	7・8	市内各種大会	6	春期教育実習(～17)
23	4年サマースクール(～24日)	25	運動に親しむ会(PTA行事)	20	プール開き
27	全校学習参観日(心の教育)	29	中越地区陸上大会①	24	親子バス遠足
		30	中越地区陸上大会②		
1	栖吉川フェスティバル	5・6	中越地区各種大会	7	七夕会
15	5・6年妙高自然教室(～16日)	9	地区懇談会(長岡地区)	15	1学期終業式
21	1学期終業式	22	成果を語る会		
		23・24	中越吹奏楽コンクール		
		26・27	県総合体育大会		
5	親善水泳大会	4・4	北信越大会	4	入園選考説明会
29	2学期始業式	6	県吹奏楽コンクール	26	第2学期始業式
		17	全国中学校体育大会(～25日)		
		18	県内附属学校園合同部会		
		26	抱負を語る会, 授業開始		
		28	PTA校舎整備活動		
3	校舎大運動会(校舎合同)	3	校舎大運動会	3	校舎合同運動会
5	観察参加実習(～9日)	5	観察参加実習(～9日)	5	観察参加実習(～9日)
6	初任者研修②	10	学校説明会	17	開園110周年記念式典・祝賀会
14	避難訓練②(不審者対応)	19	西関東吹奏楽コンクール	27	園内探検
15	親善陸上大会	22	研究事前検討会		
22	研究会事前打合せ	28	都市新人陸上大会		
28	マラソン記録会				
20	教育研究協議会	5・6	新人各種大会	4	探検遠足
24	秋期教育実習(～11/4)	20	研究協議会(長岡校舎合同開催)	20	校舎合同研究会
		24	秋期教育実習(～11/4)	25	秋のお楽しみ会①
		27	音楽発表会		
1	願書受付開始	1	音楽発表会	1	秋のお楽しみ会②
19	校内音楽会	14	進路説明会	19	作品展
23	中国視察研修(教員2名参加)	17	生徒役員選挙		
25	願書受付締切				
2	仲良しフェスティバル	2	生徒総会②	9	外国の方とのふれあい会
3	入学選考検査	6	3年三者面談(～11/9)	16	2学期終業式
6	選考検査結果発表	10・11	県アンサンブルコンテスト		
22	2学期終業式	17	入学者選考検査(結果発表20日)		
		21	成果を語る会		
10	3学期始業式	10	抱負を語る会	10	3学期始業式
16	全校学習参観日	17	県スキー大会(～19日)	11	お正月お楽しみ会(～12日)
19	避難訓練③(冬季)	26・27	1年研修旅行(東京)	24	そり遠足
20	3・4年スキー(第2回・31日)	30	新入生・保護者説明会		
24	1・2年そり遠足				
9	5・6年スノースクール(～10日)	17	卒業生を送る会	3	豆まき会
13	学習参観(1～3年)	21	2年修学旅行(～23日) 沖縄平和学習	17	1日入園
15	学習参観(4・5年)	29	同窓会入会式		
20	一日入学				
2	ありがとう仲良しの会	5	第64回卒業証書授与式	6	お別れ会
19	3学期終業式	7	公立高校一般選抜学力検査	15	3学期終業式
21	112回卒業証書授与式	19	終業式	16	第111回保育証書授与式
		26	離任式		

2 特色ある教育活動

2.1 教育学部における「教育実践カリキュラム」の概要

No.	名 称	主要対象学年	担当組織	開始年度	内 容	目 標
1	フレンドシップ実習	1、2年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成9年度	(1) 地域の自然・社会・文化に触れ、子どもとともにこれらを体験的に学ぶ。 (2) 教師に求められる資質、力量形成のための有効な方策、連携のあり方について、関係諸機関とともに協議する。	(1) 教育の実践的研究に関する問題関心の基礎を培う。 (2) 教育実習に直結する力量形成の出発点を形成する。
2	入門教育実習	1年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成11年度	(1) 学校における教育活動への参加・観察を行う（3回程度）。 (2) 参加・観察した活動の内容、成果等をレポートにまとめ、報告、発表する。 (3) その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について、考察する。	(1) 学校における教師の仕事、子どもの実態に触れることにより、教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を促す。 (2) 専門教育を受けるための準備段階を形成する。
3	観察参加実習	2年次生	教育実習委員会	平成13年度 (現在の体制による実施開始年度)	(1) 附属学校園における教育活動に関する参加・観察を行う。 (2) 参加・観察の内容についての考察および指導教員、実習生への報告、討議を行う。 (3) 3年次「教育実習」に向けた今後の学習方向、課題の明確化を図り、レポートにまとめる。	(1) 学校における教育活動について一通りの理解を得る。 (2) 3年次「教育実習」の準備段階を形成する。
4	教育実習 (主専攻、副専攻)	3、4年次生	教育実習委員会		(1) 教育課程の理解、(2) 教科、道徳、特別活動、総合的な学習の指導についての理解、(3) 学級経営の理解、(4) 生徒指導の理解、(5) 幼児・児童・生徒の理解、(6) 実践研究の方法の理解、(7) その他。	(1) 教育活動がどのように営まれているかを理解させる。 (2) 実践的指導力の基礎・基本を培わせる。 (3) 研究課題を発見させ追求させる。
5	研究教育実習	4年次生	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成10年度	1単元の計画・実施・評価・改善の一連の教育実践およびその研究過程を踏む。	(1) 単元の指導力、研究力量を形成する。 (2) 教育実践・臨床研究に関する研究方法を習得する。
6	新潟市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	3、4年次生、大学院生他	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	小学校、中学校、特別支援学校における教育・学習活動の支援を行うことを通じて、学校教育に貢献する。	学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深める
7	子どもふれあいスクール事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成15年度	保護者・地域、学校、新潟市の三者の連携により、子どもたちの安全な遊び場の提供を目的とする「子どもふれあいスクール」に、ボランティア・スタッフとして参加する。	
8	見附市教育委員会「新潟大学連携 学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成18年度	見附市立小・中・特別支援学校からの要請に応じ、教育活動の支援を行う。	
9	三条市教育委員会「学習支援ボランティア」派遣事業	特に設定しない	教員養成フレンドシップ事業推進室	平成19年度	三条市内の小学校において、教育活動の補助を継続的に行う。	
10	学校インターンシップ	大学院教育学研究科1、2年次生	学校インターンシップ委員会	平成17年度	(1) 実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行う。 (2) 教育実践に関する問題意識の明確化を図る。	専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見する。

実施時期、 期間	関係機関	募集定員	参加学生数	対応する授業科目	そ の 他
通年	公民館、学童保 育施設、少年セ ンター等	50名	30名	「教育実践体験研 究Ⅰ」 (学校教員養成課 程共通科目、選 択、2単位)	(1) 「教員養成学部フレンドシップ事業」(文部省(当時)、平 成9年度開始)に連動する授業科目として設定(「教育実践 体験研究」)。平成15年度より、現在の授業科目名に変更。 (2) 平成16年度より、他のカリキュラムとともに、「教員養成 学部フレンドシップ事業」の一環を構成。平成17年度より、 通称を「フレンドシップ実習」とする。
通年	附属幼稚園、小 学校、中学校、 特別支援学校お よび公立、市立 の学校園	90名	114名	「教育実践体験研 究Ⅱ」(学校教員 養成課程共通科 目、選択、2単位)	(1) 平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育 内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より実施。 (2) 平成11～14年度においては、既存の授業科目(教育実践研 究関連科目)により単位認定。平成15年度より、対応する授 業科目を新設。 (3) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の 一環を構成。
9月、 5日間	附属学校園 (6校)		学校教員養成課程所 属学生全員、新課程 所属学生の内、教員 免許状取得希望者、 総計328名	「教育実習事前・ 事後指導」(2単 位、学校教員養成 課程は必修)の一 環を構成)	(1) 教育職員免許法の改定に伴い、平成13年度より、単位数を 1から2に増加、実習の期間を2.5日間から5日間に延長す る形で、実施している。
春期・秋 期、各2 週間、総 計4週間	附属学校園、協 力校園 総計(のべ)200 校		学校教育課程所属学 生全員、新課程所属 学生の内、教員免許 状取得希望者、総計 (のべ)814名	「初等教育実習」 「中等教育実習」 等	
通年	附属学校、協力 校	特に設定 しない	51名	各教科において多 様な形で設定。	(1) 平成10・11年度、文部省委嘱事業「教職課程における教育 内容・方法の開発研究」の一環として、平成11年度より、 「仮説検証教育実習」(3年次対象)および「総合教育実 習」(4年次対象)を実施。 (2) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の 一環を構成。 (3) 平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成 を得た。
通年	新潟市教育委員 会・学校支援課、 新潟市立特別支 援学校、小学 校、中学校	117校、 230人 (派遣要 請総数)	87校、152名 (新潟青陵大学から の派遣数は含まない 数)	「教育実践体験研 究Ⅲ」 (学校教員養成課 程共通科目、選 択、2単位) 平成17年度より新 設。	(1) 平成14年度における試行を経て、平成15年度より本格的な 取り組みを開始。 (2) 平成15・16年度、新潟大学地域貢献特別事業計画の一環を 構成(カテゴリー「人材養成」、事業名「児童・生徒の学力 向上推進事業」)。 (3) 平成16年度より、「教員養成学部フレンドシップ事業」の 一環を構成。 (4) 平成16年度においては、日本教育大学協会による研究助成 を得た。 (5) 平成17年度以降においては、新潟市と新潟大学との包括連 携協定(平成17年6月締結)による事業の一環を構成。 (6) 平成18年度から、新潟青陵大学との共同による派遣を開始。 (7) 平成21年度から、幼稚園への派遣を開始。
通年	新潟市教育委員 会・地域と学校 ふれあい推進課	特に設定 しない	23年度新規登録15名 (教育学部生のみ) (登録学生人数 教育学部36名、 他学部10名)	特に設定しない	新潟市立の小学校、総計8校(新潟、鏡淵、笹口、坂井東、 新通、東青山、五十嵐、西内野)に、ボランティア・スタッフ として学生を派遣した。
8～9月、 1～2月	見附市教育委員 会 見附市立小・中・ 特別支援学校	特に設定 しない	52名 (のべ130名)	特に設定しない	(1) 見附市立見附小学校、見附第二小学校、上北谷小学校、田 井小学校、名木野小学校、新潟小学校、今町小学校、葛巻小 学校、見附中学校、南中学校、西中学校、見附特別支援学校 (総計12校)に対して、主として、8月～9月に実施された 自然教室、水泳指導、補充学習(国語、算数等)等に学生を 派遣した。
通年	三条市教育委員 会・学校教育課、 三条市立小学校	特に設定 しない	3校、3名	特に設定しない	(1) 派遣先は、三条市立裏館小学校、上林小学校、条南小学校 (総計3校)。 (2) この他、「わくわく科学フェスティバル」(8月)、三条 市中学校音楽祭(11月)、子育て支援課「放課後子ども教 室」に対しても、それぞれ、8名、3名、5名(16名)の学 生を派遣した。
通年	附属学校園、協 力校園	特に設定 しない	4名	「学校インターン シップ」 (教育実践共通科 目、選択必修、2単 位)	(1) 平成17～19年度においては、「教育実践総合研究」(研究 科共通科目、必修、2単位)との連動による実施。 (2) 平成20年度におけるカリキュラム改革により、対応する授 業科目を現在の形に独立させた。 (3) 平成20年度から、部分的に、新潟市教育委員会「学習支援 ボランティア」派遣事業と連動。

2.2 「フレンドシップ実習」の概要

フレンドシップ実習（授業科目「教育実践体験研究Ⅰ」2単位）は、今年度で15年目を迎えた。おもに、教育学部学校教員養成課程1，2年次学生が参加し、地域の自然・社会・文化に触れながら、子どもと共に体験的に学ぶことを目的としている。（本実習は、広く他課程や全学部に向けて開かれているが、学校教員養成課程以外の学生参加はごく僅かである。）

入門教育実習が学校への参加を目的としているのに対して、本実習では学校とは異なる教育施設や団体である公民館・NPO・ひまわりクラブ・子どもふれあいスクールなどの全面的な支援・協力の下に実習を行っている。

前年度同様に、今年度は計4コース（募集定40～50名）を開設した。しかし、事前広報が不足したのか、近年になく参加者が少なかった。参加学生の振り返りレポートに窺えるように、参加者にとっては充実した内容であった。多くの学生の参加が実現できるような体制作りが課題となっている。

通常の講義等への出席に支障をきたさないように、原則、週末・休業中を利用してコース毎に実習を実施した。その成果を報告するため11月26日（土）に参加者全員が集まり交流・発表会を開催した。（発表プログラムは2節、発表内容は第2章、レポートは第3章に掲載してある。）

5年前から、全体発表会運営と報告書編集を学生主導で運営する体制がとられ、各コースの代表者数名から発表会実行委員、報告書編集委員をそれぞれ選出し組織した。両委員会は、数回の会議を開き、全体発表会・意見交流会の準備・運営、報告書編集作業に取り組んだ。その体制が受け継がれ、軌道に乗りつつある。下記は、今年度の各コースの活動概要である。

表 2011年度「フレンドシップ実習」におけるコース別活動概要一覧

コース名	担当教員	活動時期	主な活動内容	活動場所	参加学生
① ループ体験コース	松井賢二	個別実習 9月中 全体実習 8月12日	ひまわりクラブと連携し学生企画の遊びで交流	ひまわりクラブ	15名
② 自然科学実体験コース	宮蘭 衛	5月から11月まで 計6回(土曜日午前)	NPO法人星空ファクトリー主催科学実験講座の補助	NIC新潟大学前	4名
③ 野外活動体験コース	大橋正春	9月10日 10月9-10日	ウォークラリーとテント泊・キャンプファイヤー	新潟大学構内	8名
④ 「子どもふれあいスクール」コース	佐藤佐敏	毎週（五十嵐小－月水、内野小－土、新通小－水土）定期的継続的に実施	市教委と連携し放課後や土曜日午前中に学校施設内で地域の子供と遊び等を通しての触れあい	五十嵐小 内野小 新通小	3名
全体発表会	大橋正春 佐藤佐敏 宮蘭 衛	11月26日（土） 午前中	各コースの活動発表と小グループでの意見交流会を学生主導で実施	教育学部 105講義室	30名

2.3 「入門教育実習」－1年次生を対象とする「教育実践カリキュラム」の開発

1. 「入門教育実習」とは

「入門教育実習」とは、学校教員養成課程に所属する1年次生を対象とする教育実習カリキュラムであり、同課程の共通選択科目群の一つである、授業科目「教育実践体験研究Ⅱ」として開講されている。

主要な活動は、①学校における教育活動への参加・観察を行うこと（計3回）、②活動の内容、成果をレポートにまとめると同時に、報告会において発表し、担当教員からの講評を受けること、③それを通して、その活動が教師に向けての自己形成にとって持つ意味について考察することである。上記の活動全体を通して、①教育を受ける立場から教育を行う立場への視点・姿勢の転換を図ること、②専門教育を受けるための準備段階を形成することを目的としている。

この実習の実施は、平成11年度の試行から数えて13年目にあたる。平成21年9月における教育実践総合センターの廃止により、平成22年度から、教育学部内に設置された教員養成フレンドシップ事業推進室（「入門教育実習」実施専門部会）に実施組織が移行している。平成23年度においては、27名の学部教員、13名の実習校教員を中心に、総計10校3園の協力を得て、実施された。

2. 実施概要

4月に、ガイダンス（学年別、専修別）での簡単な説明を行った後、独自の説明会を開催し、受入学生を確定した。説明会出席者は159人、受入者は114人であった。なお、この実習においては《コース》が活動の基礎単位となる。コースは、学生10～12名程度、学部教員3名、実習校担当教員1～3名によって構成される。平成23年度において設定したコース名と受入学生数を次に示す。

(A) 附属新潟小学校訪問コース	15名	(F) 幼稚園・小・中学校訪問コース	12名
(B) 附属新潟中学校訪問コース	12名	(G) 学校行事参加・見学コース	12名
(C) 附属特別支援学校訪問コース	14名	(H) 附属長岡学校園訪問コース	13名
(D) 幼稚園訪問コース	12名	(I) 見附市立小・中学校訪問コース	12名
(E) 中学校訪問コース	12名		総計114名

上記の体制により、学生は、5月から11月までの期間、実習校から提供され、カリキュラムとして編成された教育活動（《メニュー》）への参加・観察を行った。活動の内容は、1日学校訪問、1日幼稚園訪問、授業観察、運動会、遠足、文化祭、サマースクール（1泊2日）等である。

教育活動への参加・観察が終了した後、学生は、活動の内容、成果に関するレポート（個別レポート）を作成・提出し、担当教員による指導を受けた（総計3回）。これらの活動を基礎として、12月に報告会を開催し、学習成果の報告と交流を行った。報告会には、履修学生全員、学部の担当教員に加え、実習校の担当教員6名、過去の履修経験者（4年次生）1名が出席し、学生の報告に対する講評を行った。1月に、学生は上記の活動全体を振り返って、最終レポート（総まとめレポート）を作成・提出すると同時に、各コースにおいてレポート集を編集して、約6ヶ月間に渡る活動を終了した。

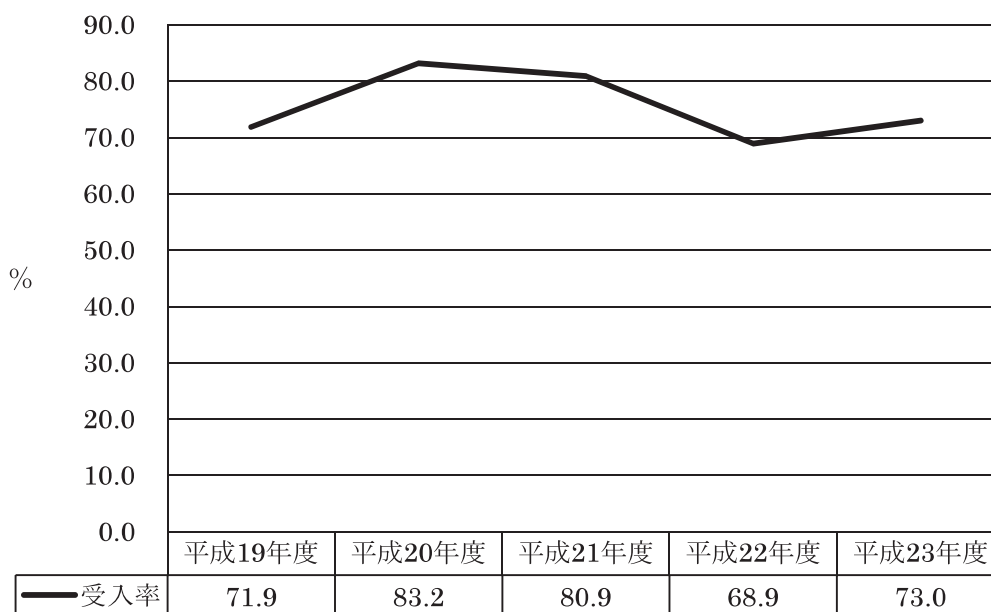
3. 学生の動向

平成23年度における学校教員養成課程の入学者は228人、その内、「入門教育実習」説明会への出席者は159名、履修希望者は156名であった。これは、入学者全体の内、それぞれ、69.7%、68.4%にあたる。最終的な受入学生数は114人であり、受入率は履修希望者の73.0%にあたる。

上記の数値を平成22年度と比較するならば、入学者において6人の減少、説明会出席者・出席率において23人、8%の減少、履修希望者・希望率において5人、0.4%の減少となり、すべてにおいて減少している。これに対して、受入学生数は3人増、受入率は4.1%増であり、わずかではあるが増加している。

過去5年間における学生受入率（受入学生数／履修希望者数）の推移を次に示す。

グラフ. 「入門教育実習」における学生受入率の推移（過去5年間）



4. おわりに

終了後に提出されたレポートには、この実習に対する高い満足感が示されている。学生の中には、この実習の存在が新潟大学教育学部を受験する重要な要因となった学生も存在する。実習終了後においても学生間の繋がりが継続し、例えば、「教育実習」の履修（3年次）、教員採用試験の受験（4年次）等において協力関係が継続されている事例も見られる。これに加え、多様な専門領域から多くの学部教員がこの実習を担当している。この事実は、この実習が教員養成カリキュラムとしての重要な意味を備えていること、それが、多くの学生・教員に共有されていることを示している。なお、平成24年度からは、燕市の小・中学校を訪問するコースを新設する予定である。



実習風景

実習の全体については、新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室編『1年次生を対象とする教育実習カリキュラムの開発研究（第13年次）』（2012年3月）に報告している。学部のホームページにも一部を公開している。合わせて参照して頂ければ幸いである。

2.4 「研究教育実習」－4年次生を対象とする「教育実践カリキュラム」の開発研究

新潟大学教育学部「フレンドシップ事業」の一環として、平成16年度より、教育実践総合センターに教育実習研究会（「研究教育実習」研究グループ）を設置し、「研究教育実習」のカリキュラム開発研究を推進している。「研究教育実習」とは、教育実践・臨床研究に関する研究方法の習得を目的とする教育実習カリキュラムであり、本開発研究の目的は、(1)多様な教科領域において研究教育実習カリキュラムを開発すること、(2)附属学校園との連携協力体制を含む、組織的な研究開発体制を構築することである。なお、本学部の「教育実践カリキュラム」において、この「実習」は、「学習支援ボランティア」とともに、4年次段階における重要な構成要素として位置付けられている。

平成23年度においては、社会、家庭科、数学、理科、保健体育、美術の各研究室において取り組みが進められた。その概要を下記に示す。

また、平成23年度においては、12月19日に、学習会「『研究教育実習』の現状と課題」が開催され、社会科学、理科、体育の実践事例が、学部教員、学生・院生、受入校教員から報告された。

なお、今年度の詳しい取り組みや学習・講演会の内容については、報告書『「研究教育実習」の多様な展開（Ⅶ）』（2012年3月）に記した。

学部担当教員 (所属、専門分野)	授業科目の概要 (名称、開講時期、履修学生数)	研究の概要 (目的、教科・領域、対象、方法等)	授業の概要 (学校・学年、時期、時数、授業者等)
児玉 康弘 (人間社会ネットワーク 講座・社会科教育学) 佐藤 佐敏 (教育科学講座・教職 指導)	「教材開発の実際と課題」 (教育学研究科大学院1年 次、前期、2単位、27人)	大学院選択必修科目「教材開 発の実際と課題」において、教 科グループ別に開発教材と指導 案を作成し、模擬授業を行うと 共に、代表教科グループが、附 属新潟中学校で実験授業を行っ た。	(1) 附属新潟中学校1年2組、 平成23年7月7日(木)5限。
高木 幸子 (生活環境学科目・家 庭科教育学)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、3 人)	卒業研究において、小学校家 庭科の学習内容及び指導方法に 関して検討を行い、その内容の 一部について、授業として具現 化し、学校現場で実証的に検討 した。	(1) 附属新潟小学校、5年、 11月、3時間。 (2) 新潟市立鏡淵小学校、 5年、11月、5時間。 (3) 新潟市立沼垂小学校、 6年、11～12月、7時間。
垣水 修 (自然情報講座・幾何 学)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、4 人)	卒業研究において、環境問題 について考察する場合の算数・ 数学の役割と、それを学校教育 にどのように取り入れていけば よいか、について研究した。特 に、「エネルギー問題」を題材 とする教材を開発し、新潟市立 鳥屋野小学校において授業実践 を行い、それを基に授業分析と 考察を行った。	(1) 新潟市立鳥屋野小学校におい て第6学年1クラスを対象に、 10月、4年次学生が、2時間の 授業を行った。
山田 和美 (自然情報講座・数学 教育学)	「卒業研究」 (4年次、通年、6単位、5 人)	卒業研究において、ICTを用 いた算数・数学科における教材 作成を行った。「空間図形」に 単元を絞り、3つのソフトウェ アを用いて教材を作成し、小学 校、中学校で授業実践を行っ た。授業後には、実践を記録し たビデオ、児童・生徒に行っ たアンケートをもとに授業を分 析、考察した。	(1) 新潟市立竹尾小学校6年2 組、2月、2時間。 (2) 新潟市立光晴中学校1年1 組、2組、2月、各1時間。

<p>興治 文子 (自然情報講座・理科教育学)</p>	<p>該当なし (教育学部生・理学部生4年次6名はJST理数系教員(CST)養成拠点構築事業による正規授業外プログラム、教育学部3年生2名、院生3名は自主研修)</p>	<p>理科4科目それぞれにおいて、既習内容から発展的な内容へと繋がる理科授業実践を行った。実施1カ月以上前から実習先と連絡を取り、授業づくり、予備実験、模擬授業などを行った。授業後には、協議会、生徒に対するアンケート調査による授業分析などを行い、考察した。</p>	<p>(1) 燕中等教育学校、第3学年、5月～2月、80分×2回をのべ5日、CST養成プログラムの学生(教育・理学部の4年次)と本研究室所属3年生および院生。</p>
<p>滝澤かほる (保健体育・スポーツ科学講座・保健体育科教育)</p>	<p>「体育方法学演習IA」 (4年次、前期、後期、2単位、2人)</p>	<p>今年度は特別活動のクラブ活動の実習とした。 クラブ活動は、学年や学級を超えて同じ興味・関心を持った児童による活動である。授業とは違うクラブ活動という場におけるリズム体操の取り上げ方、支援の方法や内容について、さらにクラブ活動におけるリズム体操およびダンスの可能性を知ることが目的とした。</p>	<p>(1) 附属長岡小学校、第4、5、6学年リズム体操クラブ、5月～11月の隔週火曜日)14:40～15:50、全12回、および12月5日(土)第30回体操発表会:新潟市鳥屋野総合体育館、クラブ活動。</p>
<p>柳沼 宏寿 (芸術環境講座・美術科教育)</p>	<p>「美術科教育課題研究」 (4年次、通年、2単位、1人)</p>	<p>絵本を題材にして、物語のイメージを絵画化するとともに、原画との比較分析を通して、美術教育における絵本の魅力と可能性について実践的研究を行った。</p>	<p>(1) 新潟市立大形中学校、2学年、5～3月、4年次。</p>
<p>岡野 勉 (教育科学講座、教育内容・方法)</p>	<p>「教育方法学演習C、D」 「教育内容・方法C、D」 (3、4年次、前期、後期、総計16人)</p>	<p>小数の教育内容・教材構成について、学習指導要領・教科書、指導プラン等に関する検討を行った後、宮城県多賀城市立の小学校において、4年生を対象として実施された一連の授業(全14時間)について、記録の作成、分析・評価、改訂案の作成等に取り組んだ。終了後、授業者および学生の出席による報告会を開催し、成果の全体に関する報告と検討、意見交換を行った。</p>	<p>(1) 報告会は、授業者(前・多賀城市立城南小学校教諭・佐藤敬行)および学生(約20人)の出席により、2012年3月10日(土)新潟大学教育学部において開催した。</p>

2.5 「学習支援ボランティア」派遣事業および関連事業 ー学生の学校支援を組み込んだ「教育実践カリキュラム」の開発に向けて

平成15年度より、新潟市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア」派遣事業を、継続的に実施している。この事業は、学生（主として4年次生）、大学院生が、年間、週1回程度、定期的に学校に入り、授業補助、校外学習引率、配慮を要する児童・生徒の個別指導等、教育活動の支援を行うことを通して、学校教育に貢献すると同時に、学校の役割、教師の仕事、子どもについての認識を深めることを目的とする事業である。新潟市と新潟大学との包括連携協定（平成17年6月締結）による事業の一環として位置付けられている。現在、教育学部においては教員養成フレンドシップ事業推進室が、新潟市教育委員会においては学校支援課が、それぞれ、関連業務を担当している。

事業開始後9年にあたる平成23年度において、学校からの派遣要請総数は117校、230人であった。派遣されたのは、教育学部3・4年次生のほか、大学院教育学研究科、人文学部、理学部、養護教諭特別科に在籍する学生・大学院生、総計152人である。今年度の派遣先（学校数、派遣総数）は、小学校（54校、88人）、中学校（29校、57人）、幼稚園（3校、5人）、中等教育学校（1校、2人）総計87校である。学校数、派遣人数については、平成22年度（72校、123人）から、派遣校数が15校、派遣者数が29人増加した。なお、平成18年度から、新潟青陵大学が、この事業に参加している。

新潟市教育委員会の調査によれば、今年度においても、多くの学校から、学習内容の理解・定着、学習意欲の向上、安全管理、その他、多方面において効果があったことが報告されている。同時に、事業の継続、派遣人数の増員、未派遣校の解消に対する強い要望が寄せられている。

大学内においては、9月に、中間報告・交流会を開催し、学生の活動状況、課題、要望等に関する報告、意見交換を行った（出席者、学生・院生91名のほか、大学教員、新潟市教育委員会担当者、総計96人。22年度は33人）。12月には、「平成22年度『学習支援ボランティア』派遣事業の成果と課題」をテーマとする公開シンポジウムを開催し、大学、教育委員会からの報告、学生による成果発表、受入校からの報告を受けた後、学生と派遣校教員との意見交換、それにもとづく討論を行い、来年度の実施に向けた課題を探った（出席者、学生・院生111名のほか、大学教員、現職教員等、総計約135人。22年度は約120人）。中間報告・交流会、公開シンポジウムとも学生の出席者が増加した。

平成17年度より、本事業に対応する授業科目「教育実践体験研究Ⅲ」（学校教育課程共通科目、2単位、選択）が設定されている。平成23年度においては、40人の学生が単位を取得した。事業の全体について、報告書『新潟市教育委員会との連携協力による「学習支援ボランティア」派遣事業の実施（第9年次）』を作成した。

関連事業として、新潟市教育委員会地域と学校ふれあい推進課からの要請に応え、「子どもふれあいスクール」ボランティアスタッフとして、小学校8校に対して、46人の学生（他学部生10人を含む）を派遣した。また、見附市教育委員会、三条市教育委員会と連携し、見附市立学校には12校（小学校8校、中学校3校、特別支援学校1校）に52人、三条市市立学校には3校（小学校3校）に3人の学生をそれぞれ派遣した。



「学習支援ボランティア」活動風景



公開シンポジウム 実施風景

2.6 教育実習

(1) 教育実習制度の概要

本学部の特徴は、1年次入門教育実習、2年次観察・参加実習、3年次教育実習、4年次副免教育実習および研究教育実習と、4年間一貫の教育実習が制度化されているところにある。これらのうち入門教育実習と研究教育実習については、別項に掲げられるので、その他の教育実習について記す。

教育実習は下表を標準として実施されている。

【本学部標準教育実習制度】

2年次	観察・参加実習事前指導	4時間
	観察・参加実習	1週間
3年次	事前指導	20時間
	春期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	2時間
	秋期教育実習（主免）	2週間
	事後指導	4時間
4年次	春期教育実習（副免）	2週間

(2) 教育実習の特色

本学部における教育実習の特色として以下の点をあげることができる。

① 事前事後指導

事前事後指導では、30時間（15コマ）を適切な時期に配置している。

事前指導では、小学校主免学生には国語・算数・社会・理科・図工・音楽・道徳の7教科10コース、中学校主免学生には全教科11コース、その他、幼稚園と特別支援学校の主・副免学生に各1コースを開講し、それぞれのコースにおいて指導案作成演習と模擬授業を実施した。

② 観察・参加実習

3年次の教育実習に向けて、予め学校や児童・生徒の実態を把握し予備知識を得るために、2年次に、観察・参加実習を行っている。

附属学校園において1週間実施した。

③ 春期と秋期における教育実習

3年次教育実習は、春期と秋期に分割し、附属学校園と一般協力校など、異なる学校における機会を提供している。

④ 各地区学校との連携協力

新潟地区・長岡地区の校長会長との打ち合わせ会を定例化している。また、実習生を受け入れた全実習校の担当者が一同に会する教育実習運営協議会を、年に一度開催している。

2.7 介護体験

(1) 介護等体験について

介護等体験は、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」（平成9年法律第90号）が公布され、平成10年4月1日から施行されている。

本学部では、学校教員養成課程（平成19年度までは学校教育課程）所属の学生のうち特別支援教育専修（平成19年度までは障害児教育専修）を除く全員と、その他の課程所属学生のうち中学校免許状の習得を希望する者を対象として、県内社会福祉施設で5日間、本学の特別支援学校で2日間の「介護等の体験」を行っている。実習内容は、障害者、高齢者等に対する介護、介助のほか入所者との交流、職員の業務補助等々幅広い体験となっている。

(2) ガイダンス及び事前指導

実習に先立ち、次の次第によるガイダンス及び事前指導を行った。

○ 事前指導

月 日 平成23年4月8日（金）

対 象 平成23年度に介護等体験を希望する者（主として2年生）

(1) 開会

(2) 介護等体験の実施にあたって

全学教職支援センター教職課程支援部門 宮 菌 衛 部門長

(3) 介護等体験受け入れ側による事前指導

「附属特別支援学校における介護等体験について」

附属特別支援学校副校長 藤村 修 氏

「社会福祉施設等における介護等体験について」

新潟県介護福祉士会会長 宮崎 則男 氏

(4) 介護体験の諸連絡等

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

および人文社会・教育科学系学務課職員

○ ガイダンス

月 日 平成23年12月19日（月）

対 象 平成24年度に介護等体験を希望する者（主として1年生）

(1) 介護等体験実施の概要について

(2) 介護等体験の申込等の手続きについて

学務部教務課全学教職支援事務室事務職員

(3) 実習状況

平成23年度は、学校教員養成課程222名、その他の課程72名、大学院3名の計297名が次の表のとおり実習を行った。

(4) 効果と今後の課題

施設や学校からは、実習状況は概ね良好との報告を受けているが、進路変更等による4名の実習取消や、学生の自覚・準備不足による期間変更があるなど、更なる事前指導の取り組みが求められる。

平成23年度介護等体験実施施設一覧

地 域	施設数	人 数	備 考
新潟市	52	205	
長岡市	10	13	
三条市	6	8	
新発田市	6	11	
柏崎市	7	7	
加茂市	1	2	
小千谷市	1	1	
十日町市	2	2	
村上市	2	2	
見附市	3	3	
燕市	6	9	
糸魚川市	2	2	
妙高市	2	2	
五泉市	3	4	
上越市	12	12	
阿賀野市	2	2	
佐渡市	2	3	
南魚沼市	3	3	
胎内市	1	1	
田上町	2	2	
出雲崎町	1	1	
関川村	1	1	
弥彦村	1	1	
合 計	128	297	

平成23年度特別支援学校実習一覧

	回 数	実 施 期 間	人 数
附属特別支援学校	1	H23. 5. 10 ~ 5. 11	26
	2	H23. 5. 18 ~ 5. 19	28
	3	H23. 5. 26 ~ 5. 27	30
	4	H23. 6. 28 ~ 6. 29	31
	5	H23. 7. 6 ~ 7. 7	33
	6	H23. 11. 9 ~ 11. 10	31
	7	H23. 11. 16 ~ 11. 17	26
	8	H24. 1. 18 ~ 1. 19	47
	9	H24. 1. 25 ~ 1. 26	45
合 計			297

2.8 「キャリア・デザイン論」（2単位）の開講

平成17年度より、3年次以上の教育人間科学部学生を主たる対象とした全学科目「キャリア・デザインⅠ」、「キャリア・デザインⅡ」を開講してきた（担当教員：松井、高橋）。そして、平成22年度からは、対象学年を2年次以上に拡大し、2つの授業を統合・発展させる形で、あらたに「キャリア・デザイン論」（2単位）を開講した。23年度も同様である。

この講義は自己理解を深めて己を知り、見知らぬ他人とのコミュニケーションを図ることを積極的に行うとともに、十分に時間をかけて将来のキャリアを考えようというものである。

テキストとして、本年度も『キャリア・デザイン』（仙崎武監修、文化書房博文社）を利用し、下記のとおり、集中講義で開講した。具体的な内容は次のとおりである。

* 「キャリア・デザイン論」（2年生以上対象、15コマ、2011/7/16、8/31、9/1、9/2開講）

担当教員 (コマ数)	内 容
松井賢二 (10)	「自己分析」をテーマとして、まず職業選択における自己分析の重要性を講義する中で、その必要性を認識させた。そして、2種類の検査（VPI、CA-PA）を実施しその結果を検討することによって、自己分析を行った。これらの分析結果を参考にして、自分に適した職業について再考し、その理由を明確化した。
高橋桂子 (5)	キャリアをデザインするためには、1) 自分自身を知り、2) 世の中・環境を知り、3) 対人関係能力を開発することが必要である。本講義では2) と3) に重点をおいた。具体的には2) では仕事と経済（生涯所得、所得税や為替レートの計算を行った。3) では、他者と明確な差別化をはかった「3分間トーク」を複数回行い、履修者同士で評価し、関わり能力開発を試行した。また、自分が抱える問題を整理し、解決へ導くためのチャート図を作成し、課題の明確化・抽出を図った。

2.9 インターンシップ

○「学校インターンシップ」－大学院教育における実践的カリキュラムの開発

大学院教育学研究科のカリキュラム改革の一環として、平成17年度より「学校インターンシップ」を実施している。「学校インターンシップ」とは、(1)実施校における教育活動の観察・参加、可能な支援活動を行うと同時に、(2)教育実践に関する問題意識の明確化を図り、それを通して、(3)専門的能力と識見を備えた教師に向けた、今後の自己形成の課題を発見することを目的とする活動である。平成19年度までは「教育実践総合研究」（2単位）の一環として位置付けられていたが、平成20年度に行われたカリキュラム改革により、「学校インターンシップ」（教育実践共通科目、2単位）として独立している。

平成23年度は4名の大学院生が4校において活動を実施した。その概要を次に示す。

平成23年度 大学院「学校インターンシップ」実施概要

No.	氏名	分野・専修	配属学校	活動に関する内容		
				教科等	課題、目的等	期間
1	生田 絢子	特別支援教育	内野小学校	通級指導教室	発達障害通級指導教室での教育活動への参加・観察・可能な支援をすること。 通級グループ教室でのソーシャルスキル指導への参加。	H23.07～H24.03
2	相澤 里美	特別支援教育	附属特別支援学校	通級指導教室	発達障害をもつ子どもの実態や親子の関わりの様子を長期的に観察すること。通級指導教室で行われる学習の在り方を知ること。 通級指導の補助（カメラ等での記録・活動参加）事例研究。	H23.07～H24.03
3	珊瑚 実加	特別支援教育	附属特別支援学校	通級指導教室	生徒の学習意欲を高める支援方法の考察。通級指導教室での指導を参観し、指導、支援の記録をする。その中から生徒の学習意欲を高めるための効果的な教師の言葉かけを探る。	H23.07～H23.11
4	大阪 睦	数学教育	小針小学校	算数科	学校現場での教師の活動を体験的に学ぶ。 算数科授業における実際を知り、課題を明らかにする。第6学年算数に対するチーム・ティーチング、各クラスでの生活指導、学校行事に対する参加と協力、清掃指導、第6学年4クラスに対して、担任教諭と支援を行う。	H22.07～H24.03

また、2011年12月14日に受講生が集まり、「学校インターンシップ」報告会が開催された。今年度においても、大学院生によって組織された実行委員会が計画、運営を行った。当日は、柳沼宏寿委員長による挨拶に続いて、実施者4名による活動報告があり、それに基づいて参加学生・教官による質疑応答が行われた。最後に委員長による挨拶が行われた。

なお、平成22年度における活動の内容と成果について、次の報告書を発行した。新潟大学教育学研究科学校インターンシップ事業委員会編『大学院教育における実践的カリキュラムの開発（第6年次）』、平成22年度『学校インターンシップ』実践報告書、2011年3月。

○ 企業等インターンシップ

(1) 学習社会ネットワーク課程

平成10年4月設置の当課程は、第1期学生が3年生となる平成12年度より「社会教育主事インターンシップ」を実施しています。社会教育主事資格取得希望者が生涯学習行政の実務を経験することにより、講義で得た（得る）知識の高度化を図り、社会教育主事への就労意欲を高めることを企図しています。

① 平成23年度インターンシップの概要

・実施時期及び期間

平成23年8月～9月（夏期休業期間）・10月～11月（教育実習期間）に約2週間（期日は受入機関ごとに決定）、または通年（5月～12月）で10日間相当。

・実習内容

生涯学習行政に関わる業務

各受入れ機関の日常業務のほか、生涯学習関連施設等での実習も適宜行う。

・教育課程上の位置づけ

「学習社会実習Ⅱ」（選択科目・2単位。担当教員：雲尾）での単位認定

インターンシップ先職員による評価、及びインターンシップ・レポートの発表をもとに、社会教育主事インターンシップ委員会で評価する。

・インターンシップ受入機関（【 】内数字は実習生数で延べ数）

新潟市公民館：石山【3】、中央【2】、鳥屋野【2】、亀田【1】、坂井輪【2】、小針青山【1】

新潟市図書館：中央【1】、新津【1】

新潟県立生涯学習推進センター【2】

関川村教育委員会生涯学習課（関川村公民館・村民会館）【2】

② 報告書

『平成23年度社会教育主事インターンシップ報告書』（平成24年2月29日）140部発行。実習受入機関、新潟市内公民館・図書館、関連機関、実習学生に配布していますので、図書館等で閲覧可能です。また、平成24年度の学習社会ネットワーク課程3年次生全員に配布し、感想用紙を提出するようにさせています。

(2) 健康スポーツ科学課程

平成23年度ヘルスプロモーション・社会スポーツ実習

新潟大学教育学部健康スポーツ科学課程では、3年次の必修科目であるヘルスプロモーション・社会スポーツ指導実習（インターンシップ）を9月に実施した。

健康スポーツ科学課程では、本実習を、就業以前に市民の健康づくりやスポーツ活動の現場等を体験することにより、大学における専門教育の内容への関心の高揚、将来の職業選択への意識づけなどに資することを目的としている。

<平成23年度の指導実習の概要>

- | | |
|--------|---|
| 4月18日 | 課程実習委員会 |
| 4月28日 | 第1回事前授業：各実習施設の概要説明 |
| 5月18日 | 新潟市スポーツ振興課、新潟県体育協会、新潟県健康づくり・スポーツ医科学センターを訪問し、23年度実習を依頼 |
| 5月19日 | 第2回事前授業：実習希望施設の1次調査 |
| 5月26日 | 第3回事前授業：実習希望施設の調整・決定 |
| 6月23日 | 第4回事前授業：履歴書等の実習書類の作成方法 |
| 6月30日 | 第5回事前授業：実習書類の点検 |
| 7月14日 | 第6回事前授業：実習に際しての留意事項・誓約書の作成 |
| 7月21日 | 事前特別講義：「体育・スポーツ行政の魅力」
講師：渡辺 茂氏（財）新潟市体育協会専務理事 |
| 10月20日 | ヘルスプロモーション・社会スポーツ実習報告会（教育学部大講義室） |

<各施設実習>

- | | |
|-------------|--|
| 8月29日～9月9日 | 新潟市保健所実習（4名） |
| 9月5日～9月16日 | 新潟県体育協会実習（2名） |
| 9月5日～9月16日 | 新潟県健康づくり・スポーツ医科学センター（8名） |
| 8月30日～9月5日 | 新潟市スポーツ振興課実習（2名） |
| 8月30日～9月5日 | 新潟市体育協会実習（1名） |
| 8月30日～9月19日 | 新潟市内各総合体育館実習
（鳥屋野総合・西総合・東総合・亀田総合・下山スポーツセンター：9名） |
| 8月29日～9月9日 | 新潟県障がい者交流センター（1名） |
| 9月7日～9月19日 | ビジョンよしだ実習（2名） |
| 9月7日～9月19日 | スポローれ燕実習（2名） |

(3) 音楽表現コース

音楽表現コースでは2001年度からインターンシップを実施しており、現在、6つの企業や団体が学生を受け入れている。それらは、東京交響楽団事務局、Hakuju Hall, 鼓童、新潟市民芸術文化会館「りゅーとぴあ」、新潟県文化振興財団、ヤマハミュージック関東・新潟店などである。音楽専用ホールや都内の音楽事務所、また日本の代表的なプロ・オーケストラ等の協力により、音楽マネジメントの実際、交響楽団の運営、世界規模の音楽祭の運営、音楽教室の運営や楽譜販売など、音楽を接点とした幅広い業種での就業経験が可能となっている。2011年度のインターンシップには7名が参加し、以下のような職業体験実習がなされた。詳細は、『平成23年度新潟大学教育学部芸術環境創造課程音楽表現コース インターンシップ報告書～大学を現場へ～』第10号を参照

・Hakuju Hall：8・9月（2名）

リクライニング・ジャズ・ヴォーカル・コンサート、並びに第5回 Hakuju ギターフェスタ2010「ギターワールト・トゥデイ」等でのケータリング業務・受付業務・タイムキーパーなどの運営業務。

・財団法人 鼓童文化財団：8月（2名）

国際的な音楽祭「Earth Celebration 地球の祝祭」（佐渡市小木町鼓童村）での、アーティスト・アテンド、文化財団での講習会運営等のマネジメント業務。

・新潟市民芸術文化会館「りゅーとぴあ」：7・8月（1名）

ジュニアオーケストラ・フェスティバル（すみだトリフォニーホール）における運営。

・ヤマハミュージック関東 新潟店：9月（2名）

机上研修、JOCフロアコンサート・レッスン見学、JOC&なかよしソング・コンサート見学、店舗業務等。

2.10 各課程の特色ある教育活動

○ 国語教育講座の活動

1. 新潟大学教育学部国語国文学会

(1) 新潟大学教育学部国語国文学会平成23年度夏期研究会

①日時：平成23年7月30日（土）14：00～17：10

②場所：新潟大学教育学部B棟105講義室

③内容

- ・ 会長就任記念講演 「新造の古語」 新潟大学教育学部 鈴木 恵
- ・ シンポジウム 「教科書及び教科書以外の教材の使用」
 - コーディネーター 新潟大学教育学部准教授 足立 幸子
 - シンポジスト 東京書籍小学国語編集長 岡本 哲明
 - 三省堂国語教科書編集部次長 高橋 正積
 - 新潟市立木戸小学校教諭 佐藤 承子
 - 新潟市立白新中学校教諭 島 和宏
 - 新潟県立新潟中央高等学校教諭 吉田 正実

(2) 新潟大学教育学部国語国文学会平成23年度研究大会

①日時：平成23年2月4日（土）13：00～17：20

②場所：新潟大学教育学部B棟105講義室

③内容：

・ 研究発表

- 意欲的に話す子どもを育てる指導の工夫 新潟市立内野小学校教諭 山田 綾子
- 新学習指導要領における古典学習の一実践 ―異本を比較する活動を通して、継承・発展を
自覚させる授業― 附属新潟中学校教諭 玉井 博史
- 自分の価値判断を説明し、文章の特徴を明らかにする授業 附属新潟中学校教諭 南 昌弘
- 和化漢文用字法に見る「問い」と「疑い」―古記録における判定要求の一用法の検討から― 福山大学准教授 磯貝 淳一
- テキスト内の根拠が解釈に与える影響 ―「ごんぎつね」における解釈の精度をめぐって― 新潟大学准教授 佐藤 佐敏

・ 講演

- 戦後国語教育の原点 ―学習指導要領国語科編（試案）の成立事情― 新潟大学教授 小久保美子

・ 総会

2. 読書指導ワークショップ

(1) 性格・位置づけ

- ・独立行政法人教員研修センター平成23年度教員研修モデルカリキュラム開発プログラム
(教育課題研修)
- ・新潟大学と新潟市の連携によるカリキュラム開発事業 (大学委嘱事業)

(2) 担当者

足立幸子 堀 竜一 小久保美子

(3) 受講者

新潟市及び新潟市近郊の幼稚園・小学校・中学校・高等学校の教員・司書教諭・学校司書
地域教育コーディネーター・ボランティア 計40名

(4) 日時・場所・場所

第1回 9月24日(土) 13:30~16:45 新潟大学教育学部B棟106講義室

- ・読書指導スタンダードと自己紹介
- ・読書へのアニメーション(1)
- ・リテラチャー・サークル(1)リテラチャー・サークルの行い方

第2回 10月29日(土) 13:30~16:45 新潟大学教育学部B棟201講義室

- ・リテラチャー・サークル(2)リテラチャー・サークルに適した本
- ・著作権(教師の扱い、ボランティアの扱い、子どもの指導)
- ・読書へのアニメーションから読書評価演習へ

第3回 11月26日(土) 13:30~16:45 新潟大学教育学部B棟106講義室

- ・カリキュラム上の位置づけ(読解と読書、「読書活動の充実」)
- ・リテラチャー・サークル(3)ミニレッスン
- ・読書へのアニメーション(2)
- ・比較読み(1)

第4回 12月10日(土) 13:30~16:45 新潟市立中央図書館3階ビーンズホール

- ・読書へのアニメーション(3)
- ・「西蒲子どもの本」の会 活動報告
- ・新潟市中央図書館職員との協議、図書館ツアー
- ・交流を生かした読書指導法(交流型読み聞かせ、パートナー読書)

第5回 12月24日(土) 13:30~16:45 新潟大学教育学部B棟201講義室

- ・読書環境の改善(学級文庫研究)
- ・比較文学講義
- ・リテラチャー・サークル(4) 役割で読むこと
- ・これまでのワークショップのフォロー
- ・読書指導ワークショップの振り返りと今後の課題

第6回 1月28日(土) 13:00~17:00 新潟大学教育学部B棟106講義室 ※フォーラム

- ・講演 読書指導に関する講演 筑波大学大学院教授 塚田 泰彦
- ・読書指導研修シンポジウム
受講者成果発表
講評
- ・総括講評

○ 自然情報講座の活動

1. 特色ある教員養成

i) 理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー；CST）養成拠点構築事業への採択

新潟大学では、2010年度より始まった理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー；CST）養成拠点構築事業（試行的取組）に採択された。CST事業とは、小・中学校教員の理数教育における指導力向上を図ることを目的として、大学と教育委員会が連携し、養成プログラムの開発・実施や地域の理数教育における拠点の構築・活用などを通じて、地域の理数教育において中核的な役割を担う教員を養成するものである。教育学部自然情報講座を中心に、特色あるCST養成および養成拠点構築事業3年目を実施した。

ii) 新潟市立総合教育センターとの連携

・市民向け講座「天文教室」の補助を理科の学生を中心に行った。

iii) 新潟県立燕中等教育学校での土曜講座実施

正規の授業外に位置付けられている土曜講座において、実験等を豊富にとりいれた理科授業を学生が行った。対象は中学3年生であり、5回の授業（80分×2クラス）を行った。

- 2011年6月4日（土） 生物（DNAの抽出）
- 7月2日（土） 物理（物体の運動）
- 10月8日（土） 地学（級化構造の作り方）
- 12月3日（土） 物理（なぜ夕焼けは赤いのか）
- 2012年2月25日（土） 化学（物質の三態変化）



図1 沈降実験でのようす

2. シンポジウムの開催（2012年3月3日（土）～3月4日）

「科学教育の形成・課題・新展開」研究会・シンポジウム

- 第1部 アクティブ・ラーニング型科学教育研究
- 第2部 明治中期の日本の科学教育と理科草創期の実相
- 第3部 どうする「原子力・放射線・エネルギー教育」

県内外から約60名が集まり、討論を交えた実りある会となった。

3. 学生による長岡市立日吉小学校 科学教室

2008年度より長岡市立日吉小学校にて科学クラブ（対象は小4～小6、約20名）支援を月に1度実施している。今年度は理科教育、物理の2、3、4年生が中心になって実施した。

- 内容と実施日：①空気ロケット（9月21日）、②偏光板万華鏡（11月16日）、
③アイスクリームの作成（12月7日）、④音の不思議（2月15日）

4. 教員による出前授業

平成23年度新潟県中学校理科教員指導力向上事業（地学領域講座）「新しい地層学と野外観察の方法」
清水康博 (2011/10/11)

群馬県立太田女子高校「国際深海掘削計画の特別授業（大西洋と日本をネットで繋ぐ）」

清水康博 (2012.1/12)

太田女子高

スペイン沖
海洋掘削船

海底の神秘 間近で



ネット中継し特別授業

大西洋のスペイン沖で地球環境などを調査している海洋掘削船とネットで結んだ特別授業が12日、太田市の太田女子高(矢島宜弘校長)で開かれ、1、2年生40人が最先端の世界規模の研究に触れた。

船での生活や調査研究について質問する生徒

地学を担当する金子稔教諭(58)の桐生高時代の教え子、高清水康博新潟大教育学部准教授(38)が掘削船に乗っていることから実現した。

高清水准教授は地質学が専門。日本と米国の境の変動や内部構造、地殻内生物圏の解明に取り組む統合国際深海掘削計画に参加しており、昨年11月中旬から今月17日まで、各国の研究者とともに米国の海洋掘削船で調査研究を進めている。

生徒はスクリーンやパソコンの画面を見ながら「世界に二つしかない船で、水深千メートルの海底を掘って深海の堆積物を研究しています」という説明に聴き入り、採取した地層の中から高清水准教授が実際に貝の化石を取り出す様子やデータ処理されたプランクトンの化石に興味津々。「堆積物の磁性をチェックすると、長い地球の歴史の中で、南と北が何度も真逆になっていたことが分かる」といった解説には声を出して驚いていた。

○ 学校教育課程保健体育専修・健康スポーツ科学課程

アジア大学スポーツ交流プロジェクト ～Sports For P.E.A.C.E.～ (平成22年度より継続)

平成23年度新潟大学組織的教育プロジェクト(新潟大学G P)

本プロジェクトでは、新潟という地域性を活かし、アジア(まずは環日本海、日中韓の3カ国)の大学間でのスポーツ活動に関わる交流を実施し、それぞれの国の文化的背景も含めたスポーツ関連情報の学習はもとより交流イベントを学生自ら企画・運営することを通して実践的な学びを深め、学術力を高めることを狙いとした。

<取組の具体的な目的>

1. 大学を中心とした地域社会で行っているスポーツ活動について、スポーツを通して交流し、諸外国と比較してグローバルな視野を育成
2. 教員間の交流により、双方の授業の在り方について情報交換、比較検討し、魅力ある授業科目の開講(教員の職能開発)
3. 学士課程専門教育における開設科目について体系的、総合的に応用して双方における優れた点の共有化(教育課程の体系化)
4. インターネットを活用した日常的な交流を通し、デジタル映像の活用やPCの利用によってこれらのIT技術をスポーツの中に取り入れるアイデアを培いそのテクニックの習得(教育方法の改善)
5. 英語や他国言語を用いて異文化との交流を行うことにより、生きた語学学習に結びつけていくとともにコミュニケーションスキルの習得(教育課程の体系化)
6. 各国各大学の得意種目における競技力向上のシステムを共有することによる競技力向上
7. 各国各大学の地域産業や地域住民との関わりに関する活動を相互に検討しながら地域と共にスポーツが活性化される手段の確立

本プロジェクトのコンセプト



<平成23年度の主な取組内容および成果>

(1) 日本・韓国大学生卓球交流戦運営 8月22日～26日（亀田総合体育館）

今年度は日韓学生卓球交流戦が日本で実施することもあり、新潟大学と北信越学生卓球連盟が主管となり新潟市亀田総合体育館を会場として開催された。そこでP.E.A.C.E.プロジェクト学生国際交流委員会が国際大会である本交流戦の企画・運営に携わる事でスポーツイベント・交流事業におけるマネジメント力の育成の一環として参画した。また、日韓の大学トップレベル選手が新潟の地に集う機会に地元住民にも触れあいの場を提供する主旨でトップレベルの選手達との“チャレンジマッチ”の競技参加を呼びかけたところ当初予定の60名をはるかに超える子どもから大人を含めた120名の参加希望者があり地域住民を巻き込んだ“交流”戦が展開された。



(2) 3大学間スポーツ交流イベント 8月22日～26日（哈爾濱商業大学体育学院）

平成22年度は新潟大学キャンパスをメイン会場として交流イベントが開催されたが、本年度は哈爾濱商業大学体育学院において韓国・漢陽大学、中国・哈爾濱商業大学体育学院、そして日本・新潟大学の3大学交流イベントを実施した。実施した事業は、①交流企画会議（学生同士、教員同士）②スポーツ交流イベント（水泳競技会）③アカデミックイベント（3大学合同討論会）④学生企画による交流会、を実施した。水泳競技ではコーチおよび選手合計55名がスポーツを通して交流を計った。

(3) 講師招聘授業（哈爾濱商業大学体育学院 8月23日）

本年度の講師招聘事業として新潟大学の大庭先生による水泳講習会が行われた。講習会は「理論編」と「実技編」からなり、効率よく泳ぐための基本的姿勢や動作そして呼吸法等を特に哈爾濱商業大学体育学院の水泳の初級者に対して指導をした。この模様はテレビ・ビデオ・システム（TVS）により新潟大学キャンパスに設置したモニターを通して新潟大学に いる学生達にも同時に映像を通して情報の共有をすることができた。



<総括>

学生は外国語（英語、中国語、韓国語）を交えたパンフレットの作成や3大学合同での会議及びスポーツイベントの企画・運営，連絡調整にあたり、国際交流に必要とされる様々な業務を経験している。教員が学生をサポートしながら各種イベントの実施に携わることで、学士力の向上を促すための働き掛けができてきていると思われる。

スポーツイベントの企画・運営に携わった学生からは、「この国際交流を通じて、スポーツの持っている“人と人をつなぐ力”を改めて感じる事ができた」、「この交流を通してスポーツは国境を越えた人類共通のコミュニケーションツールであるということを実感できた」、「国家間の交友や人種や国籍などの枠とは関係ない単純な人と人がスポーツをするというシンプルな関係をもつことが出来るからこそ、純粋に相互理解や友情が芽生えるのではないかと感じられた」、「このような経験が学生時代にできることは学生にとって大変貴重で有意義」などの感想が得られている。

現在は日中韓の3大学間における基盤作りの過程である。3大学間の教員及び学生の友好関係が深まっていることに加えスポーツイベントを行うことでの競技スポーツの技術向上、イベントの企画力・実行力の向上、ビデオ会議システムの設置、将来の交流の継続に関する3大学間の合意等、当初掲げていた目標を概ね達成することができた2年目であったと思われる。今後もスポーツを介して国際交流事業を実施し当初の目標を達成すべく努力をしていきたい。

○ 保健体育・健康スポーツ科学講座

1. 新大なんでもスポーツ・プロジェクト

(1) 本プロジェクト事業の必要理由

保健体育・スポーツ科学講座では、教員・大学院生・学生が、次の3つの目的を持って、新潟県、新潟市、西区と連携し、毎年「新大なんでもスポーツ・プロジェクト」を実施している。

- ① スポーツ本来の楽しさを味わいながら、将来の豊かなスポーツライフづくりに貢献する。
- ② スポーツを通して、地域での交流を促進する。
- ③ 院生および学生のスポーツ実践指導力を向上。

本年度は、以下の教室を、開講した。また、新大ウィークにおいて、各教室の参加者が五十嵐の森キャンプ場を中心に集い「なんでもスポーツ大会」を開催し、成果を発表するとともにスポーツも楽しんだ。市民は延べ〇〇人、教員・学生は延べ〇〇人が参加した。

2011（第6回）新大なんでもスポーツプロジェクト

	コース名	日 程	実施場所
A	安心してスポーツを楽しむための環境づくり	7/22(金) 7/25(月)10:15~12:45	教育学部304講義室、別科演習室
B	大人のための楽しいリズム体操教室	9/11(日) 10/2(日) 10/16(日) 11/6(日) 10/20(日) 10:00~11:30	第3体育館
C	キッズリズム体操「新大生と体操発表会出場」	9/11(日) 10/2(日) 10/16(日) 11/6(日) 10/20(日) 10:00~11:30	第2体育館Bフロア
D	スイムクリニック	10/8(土) 10/22(土) 13:00~16:00	メイワサンピア
E	五十嵐の森キャンプ場で遊ぼう	9/10(土) 10/9~10(日・祝) 10/15(土)	五十嵐の森キャンプ場
F	小・中学生のための卓球教室	9/17(土) 9/18(土) 9/19(土) 9:00~12:00	第1体育館
G	ちびっこテニスの集い	10/2(日) 10/9(日) 10/16(日) 9:30~11:30	第1体育館
H	集まれ!! ソフトボール広場	10/15(土) 10/22(土) 10/29(土) 10:00~12:00	第1野球場 (第2体B)
I	市民ランナー入門	10/8(土) 10/22(土) 11/5(土) 11/19(土) 11/26(土) 10:00~12:00	陸上競技場
J	健康・文化ウォーク	10/8(土) 10/15(土) 11/3(祝)	教育学部102講義室 (8日のみ)

「新潟市教育委員会」後援・「いきいき市民カレッジ」登録講座
2011（第6回）

「新大なんでもスポーツ・プロジェクト」に参加してみよう



新潟大学 教育学部/保健体育・スポーツ科学講座は、次の3つの目的をもって、地域の皆さんの「豊かなスポーツライフ」の実現に貢献できないかと考えています。

1. スポーツの楽しさを味わいながら、将来の豊かなスポーツライフづくり
2. スポーツを通して、地域交流の促進
3. 新潟大学 保健体育・スポーツ関連大学生、大学院生のスポーツ実践指導力の向上

そこで今年も「新大なんでもスポーツ・プロジェクト」を企画しました。なにが「なんでも」スポーツをしたい、みんなが「なんでも」スポーツをしてほしい、スポーツなら「なんでも」やってみよう！そんな方は、ぜひご参加ください。大学と地域の皆さんがいっしょになって、「なんでもスポーツ」しませんか。

ご存じでしたか！
「なんでも」から世界へ！
「なんでも」参加者の
徳橋由貴さん（19才）は、
今夏アテマでおこなわれた
SO（スパシャル・オリンピック）に、
保護男子日本代表として
出場しました。祝

【お申込み・お問い合わせ】
必要事項 ①氏名 ②年齢 ③学年 ④性別/保護者の場合はすべてご記入ください。⑤住所 ⑥電話番号またはメール・アドレス ⑦参加希望コース等をご記入のうえ、下記のいずれかの方でもお申込みください。後ほど、参加可否の連絡をいたします。

(往復入札の場合)
〒950-2181 新潟市西区五十嵐二の町 8050
新潟大学教育学部
「新大なんでもスポーツ・プロジェクト」宛
(E-mailの場合)
mailto:sgob@ed.niigata-u.ac.jp 宛
OP上からの申込み、もしくはPC、携帯からは
http://esplc.ed.niigata-u.ac.jp/non-supo/pc.html
http://esplc.ed.niigata-u.ac.jp/non-supo/mov.html

※注意※
1. 各コースの詳細については、裏面または新潟大学Webページをご確認ください。
2. 定員に達しないコースは、中止する場合がありますので、ご了承ください。
3. 参加の際には、各自必ず健康チェックをお願いします。

お申込み用フォーマット

① 氏名 _____ 男・女
(保護者名 _____)
年齢(学年) _____才(小・中・年生)
学校名 _____

② 住所 _____

③ 電話番号・メールアドレス
() _____

④ 参加希望コース
A B C D E
F G H I J

*Fは、初級・初級・中級・上級 の別

⑤ 参加希望日等(別途指定コースのみ)
____月 ____日(場所など)

⑥ 備考 _____



2. 学生企画による第30回体操発表会での発表

保健体育・スポーツ科学講座所属学生が、各種グループを支援し12月3日（土）新潟市鳥屋野総合体育館において開催された第30回体操発表会（主催：新潟県体操研究会）への出場に導いた。

これらは、(1)講座学生・院生、(2)小学校体育受講生、(3)附長岡小リズム体操クラブ、(4)新潟大学公開講座、(5)新大なんでもスポーツ・プロジェクトのグループである。出場学生数は137名であった。「自分たちが授業で作った作品」「授業で習った作品」および「先輩達から引き継いだ作品」など19作品を1500人の観客の前で発表し、大成功をおさめた。

第30回体操発表会 保健体育・スポーツ科学講座 学生企画・指導・出場グループ

作 品 名	グ ル ー プ 名
手具なしの体操（ウィーアー）	新潟大学教育学部附属長岡小学校 リズム体操クラブ
手具なしの体操（夢をかなえてドラえもん）	
ボールを使った体操（ピリズバーベキュー）	
手具なしの体操（ブギーワンダーランド）	新潟大学教育学部 保健体育・スポーツ科学講座
ラート運動	
手具なしの体操（バットマン）	
メディンボールを使った体操（ウルトラソウル）	
縄を使った体操（子どもの頃の思い出）	
手具なしの体操（スペース・ランデブー）	新潟大学教育学部 保健体育・スポーツ科学講座4年生
手具なしの体操（ラムのラブソング）	
メディンボールを使った体操（学園天国）	新潟大学教育学部 保健体育・スポーツ科学講座体育スポーツ教育学教室
手具なしの体操（Aesthetic）	新潟大学リズム体操部
輪を使った体操（ポンキッキ体操）	新潟大学教育学部 小学校体育受講生
手具なしの体操（パンプアップザジャンプ）	
手具なしの体操（アルプスの音楽祭）	新大なんでもスポーツプロジェクト 大人のためのリズム体操コース
手具なしの体操（ねこバス）	新大なんでもスポーツプロジェクト キッズリズム体操コース
傘を使った体操（となりのトトロ）	
手具なしの体操（夢をかなえてドラえもん）	新潟大学教育学部公開講座 親子リズム体操
手具なしの体操（崖の上のポニョ）	



新潟大学保健体育・スポーツ科学講座学生



附属長岡小学校リズム体操クラブ



新大なんでもスポーツ・プロジェクト キッズ（傘／となりのトトロ）



大人（アルプスの音楽祭）

○ 保健体育・スポーツ科学講座（+芸術環境創造課程）

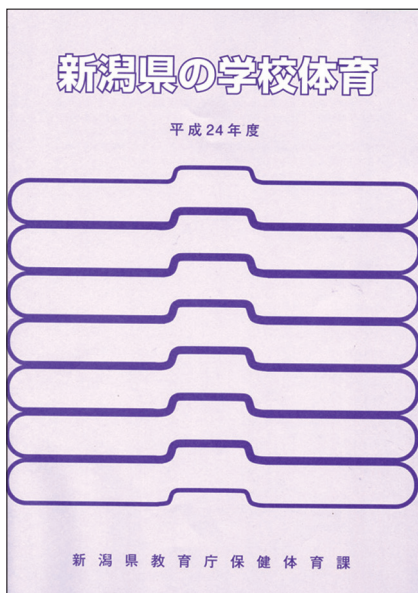
1. 平成23年度文部科学省委託事業 全国体力・運動能力、運動習慣等調査に基づく子どもの体力向上支援事業「体力づくりハンドブック」の作成

平成16年以来、新潟県教育庁保健体育課との連携で、新潟県内の小・中・高等学校を対象とした文部科学省新体力テストと生活実態調査を新潟県が継続して実施し、基本データの集計と統計処理を新潟大学教育学部運動疫学研究室が依頼を受けて行ってきた。これらの基本統計量と、生活実態調査とのクロス集計は研究室所属学生、大学院生が統計処理の学習を進めながら実施し、その一部を新潟県教育庁保健体育課に使用許可を得て卒業論文作成に用いている。これらの成果を新潟県に報告し、その一部は「新潟県の学校体育」の基礎資料となっている。

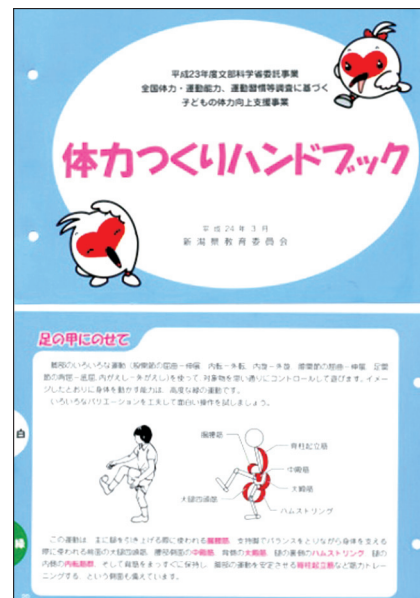
また、継続的に統計をとることで得られた疫学的分析・検討の結果を踏まえて、新潟県児童・生徒の体力向上支援委員会における施策を策定し、それらを実行に移すために体力向上支援の研修会を平成21年から、県内4～5か所で主に小学校教諭を対象に実施してきた。その際、健康スポーツ科学課程4年生、現代社会文化研究科の大学院生を帯同させ、講義、実技の補助員を担当させた。

また、23年度は、研究室学生をモデルにした実技の実施例の写真を撮影し、それらを、芸術環境創造課程の丹治嘉彦教授と所属学生の協力を得てイラスト化し、実技の解説を加えたテキスト「体力づくりハンドブック」を作成し、24年4月に全县の小・中学校、特別支援学校に配布することになっている。A5版サイズでカード式を採用し、手軽に授業の場で使えるよう工夫した。24年度の県内5カ所を巡る研修会が予定され、このハンドブックを教科書として実施する予定であり、学生、大学院生を帯同させる予定である。

新潟県の学校体育



体力づくりハンドブック



2. 地域と大学連携プロジェクト in 西区の健康づくり事業への参加

平成22年度から実施している新潟市西区との連携事業を継続して行った。この中で、大学院現代社会文化研究科大学院生、教育学部健康スポーツ科学課程学生が活動に補助員として参加し、様々なタイプの運動指導現場での事業活動、運動指導の実験を体験した。その後、これらに参加した院生、学部生の中から、厚生労働省所管の資格である健康運動指導士に2名、米国のトレーナー資格であるNSCA-CSCSに1名が合格し、これらの経験を生かした職業をめざして精進を重ねている。

当初計画では、22年度に実施した内容を発展的に継続する予定であったが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災にともない、おもな実施会場となっていた西総合スポーツセンターが避難所の一つとなって本事業は一旦休止となった。しかし、この連携事業を担当していた西区健康福祉課、西区地域課、西総合スポーツセンター、新潟大学のチームに西区の運動普及推進員の方々を加えて被災者支援の活動を行い、避難所が閉鎖される7月16日まで、活動は継続した。その活動は、被災者の方々の「エコノミークラス症候群予防」「生活不活発病予防」のための運動指導と、避難所に入所している子どもたちを対象とした「わんぱく体操教室」である。これらの活動に、健康スポーツ科学課程の学生、大学院現代社会文化研究科の大学院生が補助員として活動した（活動の初期には他学部の学生で運動部所属の学生も協力した）。

避難所閉鎖後も毎月1回、避難者の方々が西総合スポーツセンターに集まって情報交換などを行う「なんでもおしゃべり “うつくしま”クラブ」を実施することになり、その際の子どもたちを対象にした運動遊びの指導を依頼され、上述の大学院生、学部生が補助員として活躍している。この活動は今後も継続して行われる予定である。

避難所閉鎖後、西総合スポーツセンターの使用が可能となり、特色ある区づくり事業の活動は当初計画とは形を変えて実施することになった。

関連事業で、西区黒埼にできた「みどりと森の運動公園」を舞台に「西区市民ウォークinみどり森」を新しく実施することになり、健康スポーツ科学課程学生も補助員として活躍した。

また、健康づくりの「かしこく、効果的に～マイスタイルウォーキング～」（2011.10.14、11.11、12.09）、「らくらく4色の運動教室」（2012.02.22、29）、「親子フィールドアスレチックinコスポ」（2012.03.10）でも健康スポーツ科学課程学生と大学院生が補助員として活動した。

○ 芸術環境創造課程音楽表現コース

<2011年度 音楽科特色ある教育活動>

平成23年11月12日（土）に、新潟大学医歯学総合病院会議室において、教育学部音楽科授業「舞台芸術」及び「合唱」の授業成果発表を行った。

この企画は、入院患者さんに快適で潤いのある療養生活を提供したいという病院の意向と、日頃の授業等に成果を発表・披露する場を求めている学部が一致して始められたもので、平成17年度初めて開催されて以来、今回が7回目の開催となる。

当日は患者さんやそのご家族など延べ約100人が来場して開催された。最初に音楽科女声合唱団により日本民謡「鞠と殿様、ちゃつきりぶし、佐渡おけさ、会津磐梯山」などが演奏され、その後キャスト、スタッフ総勢25人の学生によりオペレッタ『海賊船長の子守歌』が公演された。またプログラムの中にくみみんなで歌いましょう>ステージを設け、『もみじ』『ふるさと』を客席の皆さんと一緒に合唱すると、会場は一緒に口ずさんで歌われた方がおられるなど、和やかな雰囲気に包まれた。オペレッタの楽しい場面では客席から笑い声が聞こえたり、最後の場面では拍手の波が起きるなど、今年の公演も大きな反響を実感することができた。

公演の後に来場者及び病院側のスタッフから喜びの言葉、感謝の言葉が寄せられ、学部間の連携事業であるこの企画は、学生達にとっても今後の活動を行う上で大きな励みとなっている。



女声合唱



海賊船長の子守歌

特色ある教育活動（音楽表現コース）

新潟市西区役所、新潟県文化振興財団、またテレビマンユニオンとの連携により、大学（学長裁量経費）と地域連携プロジェクト「Lien 2011」を大学カリキュラム（「音楽マネジメント1、2」並びに「課題研究」）の中で、マネジメント実習も兼ねて行った。3年計画で行われるこのプロジェクトは、新潟市西区内で音楽を通じた地域交流を目的とするもので、2年目の今年は16名の学生スタッフの発案・運営による5企画7公演が行われた。これらは、プロジェクトの核となる最終公演を中心に立案され、学生たちの手によって運営されて、教職員や地域の方々延べ1200人にご参加いただいた。

今年度の中心企画はジュリアード弦楽四重奏団による演奏会（10月28日・新潟大学教育学部大講義室、10月29日・黒崎市民会館）であり、関連企画としてニューヨークフィルの教育部門に属するティーチング・アーティスト（以下「NYTA」と略記）たちの方法論を新潟の実情に合わせて応用したコンサートを行った（8月27日・西新潟市民会館、10月1日・黒崎市民会館）。関連企画として、音楽科の教員を初め新潟市中心に広く演奏活動を続けている地元のアーティストたちが共演するコンサートを、学生スタッフが企画運営した。これらの関連企画では、NYTAのコンサートで重要な核となる entry point（リズムや音階といった、その楽曲に固有の切り口）という概念を学生たちが応用し、台本を含むすべての流れを制作し、出演者への交渉・依頼などプロジェクト全体の運営を行った。

また、関連企画では学生スタッフが2つのグループに分かれ、それぞれに2公演ずつを担当したが、新しい試みとしてジャズを取り入れたり、PR方法にポップを作成するなど、電子媒体でのPRも含め今までに無い試みが展開された。

このプロジェクトは、2009年に6名のNYTA（とその協力者）を新潟市（「りゅーとぴあ」劇場）と附属長岡小・中学校に招いて行われた交流コンサートを発展させたもので、附属学校の生徒や父兄、教育学部の教職員や学生、並びに地域の方々1300名余りが彼らの方法論に触れて啓発を受けたところが原点となっている。2012年度もその方法論に触発された学生たちが自ら新しい方法論を立案し、広くコンサートを実施していく予定である。詳細については、横坂研究室ホームページ（<http://www.ed.niigata-u.ac.jp/~yokosaka/>）に各企画の報告文やチラシ、プログラム等が掲載されているので、そちらをご参照いただきたい。

地域と大学連携プロジェクト in 西区

音楽の絆 2011
Lien
リアン

そうだ、コンサートへ行こう

主催：「Lien」(リアン)実行委員会
(新潟市西区役所・財団法人新潟県文化振興財団・新潟大学教育学部)
協力：テレビマンユニオン
企画・運営：新潟大学教育学部「音楽学・音楽マネジメント」研究室

photo: age fotostock/DeaArt

佐渡豊岡地区祭礼の参加

今回で3年目になる佐渡市豊岡地区祭礼（鬼太鼓）に森下研究室所属学生全員が参加した。祭礼に先立って3月28日～4月1日、民家および地区の集会所をお借りし、鬼太鼓を伝承されている方の指導の下、学生一同寝食を共にして祭りの稽古に励んだ。一端大学に戻り、祭礼の前日4月9日に佐渡入りをし、地元の方々と共に祭礼の準備にあたった。3年目となり、地域の受け入れ体制も整い、学生にとっても理想的な学習環境になりつつあると考えて居る。活動は2012年以降も継続して行う予定である。



村上市立西神納小学校訪問演奏

9月13日、村上市立西神納小学校に訪問演奏に出向いた。これはコレギウム、音楽教育入門の授業の一環として行っているもので、学校教員養成課程音楽教育専修の学生を中心に、将来教員志望の芸術環境創造課程音楽表現コースの学生、計30余名で行ったものである。当日はチャイコフスキー作曲バレエ組曲「くるみ割り人形」を管弦楽演奏と物語仕立てにして上演し、好評を博した。

○ 生活科学課程

かんしょブランド化プロジェクト：“いもジェンヌ”を使ったお菓子の開発

生活科学課程では、生活環境をめぐる諸問題について多角的に考察する力やフードスペシャリストとして豊かで安全かつバランスのとれた「食」を消費者に提案できる力を養うことを目指している。そのため、授業科目「生活科学特別講義」では企業から講師を招いての講義や現場見学の機会を設け、また「食環境科学」や「生活科学セミナーB」を通して、食品の鑑別・流通・消費・マーケティングリサーチなどの食に関する幅広い知識を習得している。以下の取り組みは、これらの科目を受講してきた2～4年生12名が、「地域の魅力発信」や「地域の活性化」、「地産地消」を推進するため、“かんしょブランド化プロジェクト”に取り組んだものである。

<取り組みの経緯>

新潟市西区の砂丘地域では、県・市・JA・生産者グループ・商工会が連携し、遊休地を解消する新規作物としてさつまいもの産地化を進めている。それまで、生産者が栽培したさつまいもから一次加工されたペーストを使って商工会の会員が菓子の試作を行っていたが、さらにかんしょブランドを代表する商品や大学生に支持される商品の開発を目的として連携を依頼された。

<連携機関>

新潟地域振興局、新潟市西区農政商工課、新潟西商工会、赤塚商工会、JA新潟みらい、内野菓子組合、新潟県菓子組合

<活動内容>

1. 食のニーズ調査（6月）

学生10人（自宅生5人、下宿生5人）が座談会形式で、普段の食に関する行動や場面ごとによく食べている菓子などについて話し合った。さらに、蒸した2品種のさつまいもとペーストを試食したうえで、どのような商品が良いか、意見を出し合った（写真1）。

2. 検討会への参加（6月～）

ネーミングとロゴ・デザインについて検討を行い、さつまいもが大好きな若い女性をイメージして、新潟砂丘さつまいも“いもジェンヌ”と命名。さらに、商品開発に向けて検討を重ねた。

3. 試食会への参加（9月）

ペーストを用いた各店舗のオリジナル商品を試食し、味や食感等について意見交換を行った（写真2）。

4. 菓子店への取材（1～2月）

数ヶ月にわたる検討会や試食会を経て完成した菓子は、新潟市内の菓子店6店舗で12月中旬から販売が開始されている。内野菓子組合所属の新川せんべい大阪屋菓子舗、松月堂、にむらや菓子舗、リン・ペペール洋菓子店、新潟県菓子組合所属のガトーシェフ三味堂、菓子舗田文、百花園を訪問し、スイーツマップ作りのための情報を収集した（写真3）。この取材の様子は、新潟日報（2012年1月13日）や西区ホームページに掲載された（図1）。

5. スイーツマップ作り（2～3月）

新大生や地域の方に広く紹介するため、各店舗の商品の特徴やこだわりなどを記載したスイーツマップを作成した（写真4、図2）。

<取り組みの成果>

本プロジェクトでは、ひとりの生活者（消費者）の視点のみならず開発チームに近い立場として主体的に参加することで、商品開発のプロセスや仕事の進め方などを経験を通して身につけることができた。また、フードスペシャリストに求められる「食」を消費者に提案できる力を養う大変貴重な場となった。



座談会の様子



試食会の様子



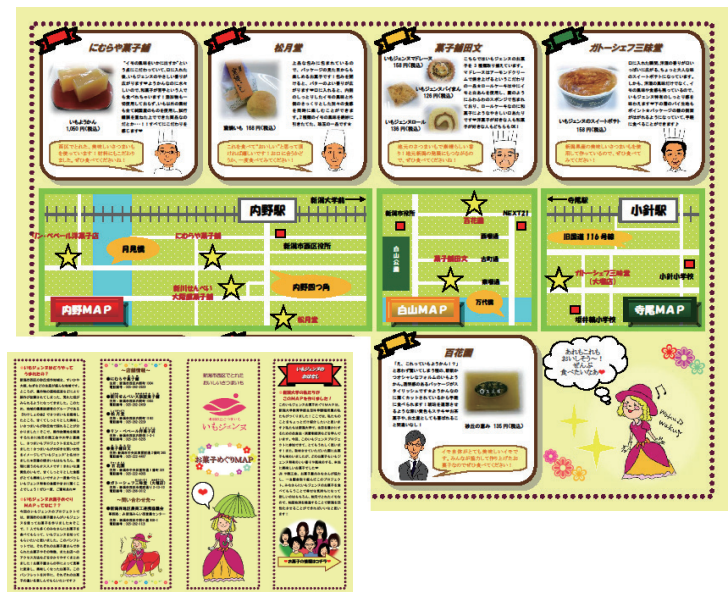
取材の様子



マップ作りの様子



新潟日報 (2012.1.13)



2.11 高校生対象体験講義

第1回 平成23年6月18日（土）

講義題目	講師	参加人数
広報委員による全体説明会	中村和吉	114
実生活に生きてはたらく国語の力	小久保美子	
津波堆積物が語る巨大津波：過去は未来を読み解く鍵	高清水康博	
人文地理学の視点に立った農業の考え方	岡村光展	
無限へ	渡邊道之	
野菜を食べよう	山口智子	
「メタボ」ってなーに？	山崎健	

第2回 平成23年9月10日（土）

講義題目	講師	参加人数
広報委員による全体説明会	中村和吉	124
数学で考える環境問題	垣水修	
中世軍記と説話	山本啓介	
普遍文法と英語の2種類の自動詞	本間伸輔	
合唱の楽しみ（合唱曲を歌う）	松浦良治	
スポーツによるウエルネスライフ	小林日出至郎	

2.12 中・高校生及び保護者の大学見学

本学部では、今後も積極的に高校生等への説明会を開催するとともに、より身近に学部を感じてもらえるような新たな企画を設定し、優秀な人材の獲得に全力を注いでいこうと考えており、近年は大学から高校へ講師を派遣する「出前講義」も行っている。

見 学 校	対象者等	開催日	担 当 者
五泉北中学校	25人	5月10日	事務対応
附属新潟中学校	12人(オリエンテーション) 40人(講義等見学)	5月25日	学部長、広報委員長 向山恭一、鶴田一雄
山形県立鶴岡東高校	32名	5月27日	岡村仁一、加藤茂夫
附属長岡小学校	155人(オリエンテーション)	6月13日	事務対応
長野美術研究所	3名 教員1名	6月28日	丹治 嘉彦、大学院生
新発田南高校PTA	42名 教員8名	7月1日	小林広報委員長 (見学：岡村 浩)
分水高校	162名 教員8名	7月6日	事務対応、佐藤 哲夫
小千谷高校	34名 教員2名	7月8日	成田圭市
新発田南高校	79名 教員1名	7月15日	藤林紀枝
栃木県立足利高校	60名 教員1名	7月21日	高清水康博
十日町高校	157名 教員2名	8月19日	五十嵐由利子、岡村光展
国際情報高校	57名 教員1名	8月22日	本間伸輔
福島県立郡山高校	77名 教員2名	9月29日	興治文子
新発田中央高校	31名 教員1名	10月19日	小林広報委員長
山形県立南陽高校	30名 教員1名	10月20日	工藤起来
新発田高校PTA	100名 教員1名	11月2日	学部長、広報委員長
附属長岡中学校	120名	11月17日	広報副委員長

3 就職支援

3.1 教員志望学生向け特別講座

本学部就職厚生委員会では、教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、学生の就職支援の一環として、本年度も次のとおり、特別講座「学校教育の現状と課題」を実施した。

講師は、全学教職支援センターの岸本賢一客員教授、江端周二特任教授、渡辺伸栄特任教授、星 勉 特任教授である。

(1) 目的

講座の受講を通して、学校教育に対する多面的な教育観を培う。多様な教育課題解決のために「何をどうしたらよいか」を考え、教師を目指す意欲を醸成する。教員採用検査に向けての具体的な対策と指導を講じる。

(2) 実施内容

① 前期分

対象学生：学部4年生、大学院2年生、養護教諭特別別科生

開講時間：16：25～17：55、場所：204教室

(ただし、第2回は15：30～17：00、第11回は9：00～12：00)

	実施日	テーマ (内容)	講師
1	4月21日(木)	特別講座・教員採用検査についてのガイダンス	岸本・江端・渡辺・星
2	5月12日(木)	教員採用検査についての説明(新潟県教委・新潟市教委からの説明)	岸本・江端
3	5月26日(木)	筆答検査問題対策	江端・渡辺・星
4	6月2日(木)	個人・集団面接、模擬授業の講義・演習	岸本
5	6月23日(木)	個人・集団面接、模擬授業の演習(個人指導)	江端・渡辺
6	6月30日(木)	第1次検査へのまとめ心得1	岸本
7	7月7日(木)	第1次検査へのまとめ心得2	岸本・江端・渡辺・星
8	7月14日(木)	第1次検査の反芻と第2次検査のガイダンス	岸本・渡辺
9	7月21日(木)	第2次検査に向けての対策	岸本・江端・渡辺・星
10	7月28日(木)	第2次検査に向けての対策	岸本・江端・渡辺・星
11	8月10日(水)	第2次検査に向けての直前対策	岸本・江端・渡辺・星
12	11月10日(木)	臨時教員採用希望者への指導・助言	岸本
13	11月17日(木)	採用候補者への指導・助言	岸本

② 後期分

主たる対象学生：学部3年生、大学院1年生 開講時間：16：25～17：55、場所：204教室

	実施日	テーマ (内容)	講師
1	10月13日(木)	特別講座のガイダンス・教員採用検査に向けての心構え	岸本
2	10月20日(木)	学校教育の現状と課題	岸本・星
3	11月10日(木)	生徒指導上の課題とその解決に向けて	新潟市教育委員会学校支援課 大江指導主事
4	11月17日(木)	採用検査に向けての小論文作成指導Ⅰ	江端
5	11月24日(木)	採用検査に向けての筆記検査・模擬授業・面接等の指導	渡辺
6	12月1日(木)	学校現場が期待する教師像	新潟市立小針小学校 高橋校長
7	12月15日(木)	採用検査に向けての小論文作成指導Ⅱ	江端
8	1月12日(木)	採用検査の実際と体験発表(採用内定学生・新採用教員)	岸本
9	1月19日(木)	教育行政が期待する教師像	新潟市教育委員会教職員課 遠藤課長
10	1月26日(木)	本講座のまとめと次年度特別講座に向けて	岸本

3.2 教員採用選考検査対策（体育実技）練習会

昨年度に引き続き、教員採用試験対策として本学部独自の教員採用選考検査（体育実技）練習会を開催した。

「教員採用選考検査対策（体育実技）練習会」

ゴールデンウィーク明けの5月6日から7月29日までの毎週金曜日、第二体育館において「教員採用選考検査対策（体育実技）練習会」を開催した。教員採用試験の実技科目（マット運動・鉄棒など）について、教員指導のもと練習を行った。参加者は33名であった。

参加者からは、「少人数で丁寧にわかりやすく指導してもらえた」「今までできなかったことができるようになった」「筆記試験の合間にやれよい気分転換になった」との意見をいただいた。

しかし、一方で、「二次試験の直前までやってほしかった」「集合時間に遅れてくる・片付けをせずに帰ってしまう人がいた」等の声もあり、来年度の改善事項としたい。



3.3 2年次生向けキャリア支援ガイダンス

今年度新たに、2年次生を対象とした本学部独自のキャリア支援ガイダンスを催した。

「2年次生向けキャリア支援ガイダンス」

9月27日に学校教員養成課程の学生、28日に学習社会ネットワーク課程・生活科学課程・健康スポーツ科学課程・芸術環境創造課程の学生向けに「教員という職業、自己・他者理解についての講演とワーク」を行った。

本学部教職指導担当教員から、観察・参加実習振り返ってもらおうと共に教員という職業について、また教員採用試験の現状についての講演を聞き、続いてキャリアコンサルタントによる自己・他者理解のワークなどを行った。

参加者は2日間合計78名であった。

参加した学生からは、「今後の学生生活の目標が明確になり、モチベーションを高めることができた」「教員になろうという気持ちが強くなった」「自分の身近なことでも考え直すことがあった」等の意見が聞かれ、概ね好評であった。

また、「2年生になり自らの進路を意識し始めている」との声が多く、より多くの学生に参加してもらえよう、次年度以降努めていくこととしたい。



3.4 公務員・一般企業志望学生向けガイダンス

今年度は本学部独自の一般企業志望学生向けセミナーを複数開催した。

1 「公務員・民間企業就職を希望する3年生のための就職セミナー」

10月14日に、「公務員・民間企業で活躍している先輩方からの就職体験談とキャリアコンサルタントからのアドバイス」を催した。公務員や民間企業を志望している学生向けに、公務員や民間企業に勤めている先輩方の就職活動体験談や現在の仕事の様子を聞き、その後キャリアコンサルタントより「教育学部」を強みとして就職活動をしようとのグループワーク・アドバイスがあった。

体験談の質疑応答では多くの質問が参加者からあると共に、「将来を見据えた就活の話をしてもらった。就活に対してプラスのイメージを持つことできた」「就活の方法や企業選びの観点、今まで考えていた以外の話が聞けて良かった」との声があがった。

しかしながら、「内定者の話も聞きたい」「試験対策のためもっと早い時期に開催してほしい」という意見もあったため、今後の検討課題としたい。



2 「就職何でも相談会」

10月～12月の各月1回、「就職何でも相談会」を催した。このセミナーは、まだ就職の決まっていない、進路に迷っている4年次生を主な対象として、進路や就職活動での悩み等を相談できる場を提供する目的で開催した。

講師には、本学キャリアセンター特任専門職員村山史子さん（キャリアコンサルタント）を招き、事前予約制による参加学生との個別相談を行った。

3回合計の参加者が4名と少なく、来年度以降キャリアセンターとも連携しながら学生への周知方法の見直しや開催形式について改善を図りたい。

3 「業者による就職ガイダンス」

11月8日に、株式会社マイナビを講師に招き、「ここでしか聞けない仕事研究・情報収集の仕方」をテーマにガイダンスを催した。3年次生を対象に教育学部ならではの業界・職種研究並びにパソコンを用いての情報収集の仕方について講演をいただいた。

参加者は76名であった。

参加者からは「多くの情報がもらえた」「教育学部だからこそその話が聞けた」という意見の一方、「他のガイダンスと内容が重複していた」「もっと公務員向けの話をしてほしい」などの要望も聞かれたため、さらに教育学部ならではの内容を提供できるようなセミナーへと改善していきたい。



3.5 臨時教員希望者への就職支援

教育・学生支援機構 全学教職支援センターと連携し、以下の支援事業を行った。

(1) 「臨時採用教員希望者登録ガイダンス」

日時：平成23年11月10日（木）16：25～17：55

臨時教員採用を希望する学生に対し、臨時採用教員希望者登録ガイダンスを行い「臨時教員採用希望調書」を配付した。また、岸本賢一全学教職支援センター客員教授より、教員としての心構えや希望調書に記入する自己PRの表現方法など、現場のエピソードを交えた具体的な話があった。

なお、臨時教員採用の情報等については、登録者のメールアドレス（学務情報システムのメールアドレス：在籍番号@mail.cc.niigata-u.ac.jp）に随時送信を行った。

(2) 平成24年度臨時教員採用希望者名簿の作成と教育委員会等への送付

「臨時教員採用希望調書」（登録者数133名）をもとに、名簿を作成した。この名簿は、新潟県教育委員会、各教育事務所、各市町村教育委員会及び学生から希望のあった県外の19自治体の教育委員会に送付し採用を依頼した。

また、下記の県内教育委員会および県外11自治体教育委員会（福島県・山形県・埼玉県・さいたま市・長野県・群馬県・富山県・福井県・岐阜県・愛知県・名古屋市）へは、副学部長等が訪問し、採用を依頼するとともに、教員採用及び本学部卒業生の動向について情報収集や学部への要望聴取等を行った。

記

訪問先	期日	担当者	
		教員	事務職員
新潟県教育委員会 新潟市教育委員会 下越教育事務所	1月13日(金)	岸本客員教授 星 特任教授	實川全学教職支援事務室 教職支援係員
中越教育事務所 上越教育事務所	1月13日(金)	宮蘭副学部長 江端特任教授 渡辺特任教授	佐藤全学教職支援事務室 教職支援係長

3.6 教員採用試験受験者向けガイダンス（3年次生向け）

教員採用試験対策として本学部独自に次年度教員採用試験受験予定者向けガイダンスを開催した。

「教員採用試験受験者向けガイダンス」

9月30日に次年度教員採用試験の受験予定者を対象にガイダンスを開催した。教員として働いている先輩方の体験発表および教職指導担当教員委等より教員採用の状況、教員採用試験のための準備対策等についてのガイダンスを行った。参加者は185名（他学部参加者を含む）。

参加者からは、「具体的な体験談が聞けて参加してよかった」「教育学部以外の学生にとっても貴重な情報提供の場であった」「必ず教師になりたいと思った」など概ね好評であり、現場で活躍する先輩方の話を聞く機会を今後も継続・増やしていきたい。

ガイダンス後は「教員採用検査特別講座」の履修希望者の申込者数が大幅に増加する等、教員を目指し積極的に行動していこうとする姿が感じられた。



3.7 教員採用・就職活動バス支援

今年度新たに、本学部独自で「愛知・名古屋への教採・就活バス支援」「東京学校見学バスツアーへのバス支援」を行った。

1 「愛知・名古屋への教採・就活バス支援」

平成23年7月20日～22日、今年度初の試みとして、教員採用検査で新潟県等と併願が可能な愛知県・名古屋市をメインとしたバス支援を行いました。

参加者は18名。宮蘭副学部長と事務職員1名を加えた20名。

結果は、愛知県二次合格者3名、名古屋市二次合格者1名。

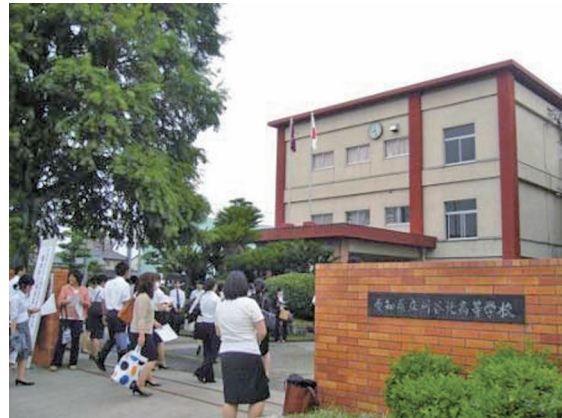
最終的に愛知県・名古屋市で教員となった者3名。

準備期間が短かったことを踏まえると、一定の評価のできる結果と思われます。

新潟県や新潟市の教員を希望する方が多いと思いますが、愛知県・名古屋市など併願可能な地域への受験を考えてみてください。「他地域で正規教員となり経験を積んだ後に地元に戻る」このような考え方があるのではないのでしょうか。

この支援実施により、愛知県教育委員会から次年度教員採用検査の説明会を新潟大学で実施していただけることとなるなど、新潟大学への期待が高まっています。

また、今年度は平日でのバス運行となり、一般企業希望者の参加はありませんでしたが、今後は早めの周知を行い、参加者が増えるよう働きかけを行います。



2 「東京学校見学バスツアーへのバス支援」

平成24年1月27日（金）に、東京都教育委員会主催「東京の学校見学バスツアー（第2回）」に参加するためのバス支援を実施しました。バスツアー参加者は8名（3年次生：5名、1年次生：2名、事務職員：1名）。学生にとっては、生徒との交流や授業参観を通して東京の学校への理解が深まったとともに、若手先輩教員や教員を目指す他大学の学生と話す機会もあり大きな刺激になったようです。

今回は初年度であり、参加者が少数でしたが、参加した学生からぜひほかの学生に勧めたいとの声もあり、来年度も継続して実施する予定です。

3.8 教育学部就職情報ホームページ

教育学部ホームページに就職情報ページを新設しました。

教員や公務員、一般企業への就職を希望する学生向けに、教育学部卒業生の就職状況や就活の体験談などを掲載しています。

先輩方が感じた悩みや成功への秘訣など、教育学部に特化した情報を発信します。

(教育学部就職情報ホームページURL :

http://www.ed.niigata-u.ac.jp/modules/job/index.php?content_id=1)

新潟大学 教育学部 FACULTY OF EDUCATION NIIGATA UNIVERSITY

サイト内検索

お問い合わせ | アクセス | サイトマップ | English

現在の場所: ホーム >> 就職情報 >> 就職情報Top

メインメニュー

- ホーム
- 教育学部 >>
- 大学院教育学研究科 >>
- (旧)教育実践総合センター
- 養護教諭特別科
- 附属学校園 >>
- 入学試験情報
- 就職関連情報
- 刊行物・公開資料
- 交通アクセス

このサイトは学部広報委員会が管理・運営を行っています。研究室、附属校園の掲載情報は各運営者にお問い合わせ下さい。掲載内容の無断転載・二次利用を禁じます。

〒950-2181
新潟市西区五十嵐2の町8050
新潟大学教育学部
広報委員会
TEL 025-262-7101
FAX 025-262-7122

お問い合わせ

Accessed: 3/4/2013 11:55

就職情報

就職実績

- ▶ 卒業生の就職状況
- ▶ 卒業生の産業別進路状況
- ▶ 卒業生の主な就職先

就職にむけて

- ▶ 教員採用試験関係
 - ▶ 教員になろう
 - ▶ 教員になるために
- ▶ 一般企業・公務員関係
 - ▶ はじめに
 - ▶ 公務員をめざす方に
 - ▶ 一般企業をめざす方に

就職体験記

先輩からの皆さんへのアドバイスです。ぜひ、参考としてください。

- ▶ 教員採用試験体験記 2011
 - ▶ 体験記 新潟県小学校
 - ▶ 体験記 山形県小学校
 - ▶ 体験記 群馬県中学校 音楽
 - ▶ 体験記 新潟県中学校 理科
- ▶ 一般企業・公務員 就活体験記 2011
 - ▶ 就活体験記 (第四銀行)
- ▶ 教員採用試験体験記 2010
 - ▶ 体験記 新潟県小学校
 - ▶ 体験記 新潟市中学校 英語
 - ▶ 体験記 新潟市中学校 数学
- ▶ 一般企業・公務員 就活体験記 2010
 - ▶ 就活体験記 (銀行)
 - ▶ 就活体験記 (敦井産業)
 - ▶ 就活体験記 (上越市役所)

塩野文庫

新潟大学創立60周年、教育学部創立135周年記念写真集

教育学部 学部案内

教育学部の特長と魅力

新潟大学

4. 学部FD・SD

1. 第1回

日 時 2011年7月14日（木曜）13時30分～14時30分

会 場 大会議室

参加者 教員62名 職員5名

テーマ

○「科研費採択にむけて」

科研費採択率の向上をめざし、科研費制度の概要と新潟大学における現状とを報告し、また、採択された事例にもとづいて、科研費採択にむけた研修をおこなった。

①「科研費と新潟大学」 八鍬友広

②「科研費を取るとのことについて」 世取山洋介

③質疑応答

2. 第2回

日 時 2011年9月15日（木曜）14時30分～15時30分

会 場 大会議室

参加者 教員86名 職員10名

テーマ

○「教職実践演習」説明会

法令化に先行して実施されることとなっている本学部における教職実践演習について、教職実践演習委員会より説明会がなされた。

①「教職実践演習の概要」 児玉康弘

②「教職実践演習の詳細」 高木幸子

③質疑応答

3. 第3回

日 時 2011年10月28日（金曜） 16時30分～18時00分

会 場 大会議室

参加者 教員28名 職員6名

テーマ

○「千葉大学教育学部における教員の養成・採用・研修の一体的取り組み」

（教育学部における教員養成プロジェクトシリーズNo.1）

千葉大学教育学部より瀧澤文雄先生をお招きして、千葉大学における教員の養成・採用・研修の一体的取り組みについて講演をいただいた。

①「千葉大学教育学部における教員の養成・採用・研修の一体的取り組み」 瀧澤文雄

②質疑応答

4. 第4回

日 時 2011年11月26日（土曜日） 9時00分～11時45分

会 場 101、102、103、105講義室

参加者 学生30名 教員6名 その他1人

テーマ

○「平成23年度新潟大学教育学部『フレンドシップ実習』体験発表会」

新潟大学教育学部フレンドシップ事業推進室と学部FD委員会の共催で、平成23年度「フレンドシップ実習」の体験発表会をおこなった。

5. 第5回

日時 2011年11月26日（土曜日） 13時30分～16時30分

会場 大講義室

参加者 学生110名 教員8名 学校教諭15名

テーマ

○「平成23年度『学習支援ボランティア』派遣事業の成果と課題」

新潟大学教育学部教員養成フレンドシップ事業推進室、新潟青陵大学、新潟大学教育学部FD委員会、および新潟市教育委員会の共催で、平成23年度「学習支援ボランティア」の成果と課題についてのシンポジウムを開催した。

6. 第6回

日時 2011年12月1日（木曜） 14時40分～15時10分

会場 大会議室

参加者 教員86名 職員8名

テーマ

○「情報セキュリティについて」

情報セキュリティのポリシー、および実際に発生しているセキュリティの事故例についての研修をおこなった。

①「情報セキュリティについて」 佐藤亮一

②質疑応答

7. 第7回

日時 2011年12月8日（木曜） 16時00分～18時00分

会場 105講義室

参加者 教員30名 職員5名

テーマ

○「総合大学における教員養成と教育学部の役割」

（教育学部における教員養成プロジェクトシリーズNo.2）

岡山大学教師教育開発センターより高橋香代先生をお招きして、総合大学における教員養成と教育学部の役割に関する講演をいただいた。

①「総合大学における教員養成と教育学部の役割」 高橋香代

②質疑応答

8. 第8回

日時 2012年2月23日（木曜） 16時30分～18時00分

会場 105講義室

参加者 教員30名 職員12名

テーマ

○「総合大学における教職実践演習の組織・運営の課題」

（教育学部における教員養成プロジェクトシリーズNo.3）

熊本大学より塚本光夫先生をお招きして、「教職実践演習の取り組み」と題する講演をいただいた。

①「教職実践演習の取り組み」 塚本光夫

②質疑応答

5. 地域貢献

5.1 12年研修

平成23年度 新潟市教職12年経験者研修「教科指導研修」の概要

1. 平成23年度新潟市教職12年経験者研修「教科指導研修」の日程等の概要

新潟市立総合教育センターと教育学部との連携事業である教職12年経験者研修「教科指導研修」（以下「12年研修」と称する）は、平成23年度で8年目を迎えた。

(1) 「12年研修」の日程と受講者・指導者等

平成23年度度の「12年研修」の活動日程は下表の通りである。

日程	研修内容	場所等
4月28日	センター・学部の事前打合せ	教育学部
6月3日	「前研修」講座 午後	センター
8月1日	「教科指導研修」1日目	センター・学部
8月10日	「教科指導研修」2日目	センター・学部
8月19日	「教科指導研修」3日目	センター・学部
9月～12月	受講者毎の「校内授業研修」	受講者の各学校
12月～1月	「研修のまとめ」	代表者の学校等

4月の事前打合会で、新潟市立総合教育センター（新潟市教育委員会を含む）指導主事と教育学部担当教員とが一同に会して、日程や研修指導体制等についての確認を行った。

夏季休業中の「教科指導研修」は、3日間に亘って実施され、各受講者の授業課題の検討、学習指導計画の検討、学習指導案検討、模擬授

業等に取り組んだ。それを踏まえて、9月以降に、グループ毎の代表者授業研究、全受講者の勤務校での校内授業研究を実施した。また、10月から1月までの期間に、グループ毎に「研修のまとめ」を実施した。

教科名	受講者数	グループ数	指導主事等数	学部教員数
国語	15(8)	4(2)	2	4(2)
社会	9(7)	3(2)	2	3(4)
算数・数学	13(9)	3(3)	3	3(3)
生活	1(2)	1(1)	1	1(0)
英語	4(6)	1(2)	2	2(2)
理科	2(8)	1(2)	2	2(4)
音楽	3(8)	1(2)	2	2(2)
図工・美術	3(2)	1(1)	1	4(4)
技術	2(2)	1(1)	1	1(1)
体育・保健	9(7)	3(2)	2	4(4)
特別支援	7(2)	2(1)	1	2(1)
合計	68(61)	21(19)	19	28(27)

教科毎の受講者数、グループ数、指導者数等は、以下の通りである。（括弧内は、昨年実績）

11教科等に68名の受講者があり、小中合同3～4名程度のグループを編成し、指導主事と学部教員がペアで参加する体制を取っている。

理科や図工・美術、体育・保健のように、グループ数よりも多くの学部教員の参加・協力がみられる教科もある。社会では、常時2名が参加し、受講者の研修内容に応じて随時参加する教員が1名あった。今年度は、生活に学部教員が1名参加した。

昨年度同様に、受講者数が60名台と比較的少なく、少人数グループ編成と指導主事・学部教員のチーム・

ティーチングが実現し、受講者一人一人の課題解決に向けたきめ細かな指導が行き届くようになっている。

2. 「12年研修」の新たな取り組みに向けて—学部「養成」と現職「研修」の連携等—

昨年度から新たな試みとして取り組んだことが一つある。それは、9月から12月に実施される代表者授業研究や全受講者の校内授業研究に学部生や大学院生が参加し、共に授業について学ぶ機会を設けたことである。それを発展させて、今年度から取り組み始めた教育学部4年次後期「教職実践演習」の受講生が、本授業研究に参加できるようにした。

5.2 市民・教員を対象とした公開講義

新潟大学新潟駅南キャンパス（通称：ときめいと（旧：CLL I C））等開設公開講座

教育学部は、生涯学習・生涯教育を学部の使命としていることから、「ときめいと」や教育学部校舎等を使用して様々な講座を開講し、生涯学習社会に生きる人々の一助となるよう心がけている。

小学生から自然に親しむキャンプ・スキー教室、発表会が楽しいピアノ講座など、本学部ならではの講座等を開設した。

以下に、今年度の実施状況を示す。

新潟大学新潟駅南キャンパス（ときめいと）等開設公開講座一覧

講 座 名	
一般 教養 講座	大人のためのピアノ講座～もしもピアノが弾けたなら～
	親子でとりくむ楽しいリズム体操
	指導者のための健康づくりフォーラム －生活習慣病予防のための運動指導を中心に－
	第7回ペーパークラフトでひろがる算数・数学の世界
	中高年のための卓球教室

5.3 教育委員会との連携事業

○ 教育委員会との連携協定

・ 新潟県教育委員会との教育懇談会（連携推進協議会）

平成23年4月4日、新潟県教育委員会と新潟大学教育学部との間で連携協定を締結したことにもない、連携事業の検証やさらなる連携の可能性についても、報告及び検討を行った。

なお、教育懇談会は連携推進協議会と名称を変更し、毎年1回開催することが確認された。

これに基づき、新潟県教育委員会と12回目となる教育懇談会（H23.8.4）を第1回連携推進協議会と位置付け開催した。

「新潟県が期待する教員の資質・能力について」、「教員採用の考え方について」、「新潟県教員採用検査の動向と優秀な人材を教員として確保するための新たな方策について」、「現職教員の大学院における研修を促進する方策について」など活発な情報・意見交換を行った。

・ 新潟市教育委員会との教育懇談会

平成23年12月14日、新潟市教育委員会と4回目となる教育懇談会を開催した。

「新潟市が期待する教員の資質・能力について」、「教員採用の考え方について」、「新潟県教員採用検査の動向と優秀な人材を教員として確保するための新たな方策について」、「現職教員の大学院における研修を促進する方策について」、「学習支援ボランティア実施関係について」など活発な情報・意見交換を行った。

・ 見附市教育委員会との連携事業

平成17年3月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、見附市教育委員会との連携事業として、市内すべての小中学校及び特別支援学校（小学校8校、中学校4校、特別支援学校1校）に学習支援（自然教室、水泳教室、補充学習、部活動指導、実験、工作教室）のためのボランティアを54人（延べ129人）派遣した。

また、学力調査活用アクションプラン推進事業に係る学習支援及び校内研修指導等が行われた。

・ 三条市教育委員会との連携事業

平成17年8月調印の「連携協力に関する覚書」に基づき、三条市教育委員会との連携事業として、「学習支援ボランティア（市内の小学校3校）」へ3人、「三条市科学フェスティバル」へ8人、「中学校音楽祭」へ3人、「放課後子ども教室」へ3人を派遣した。

また、三条市教育委員会と4回目となる運営協議会（H23.11.11）を開催し、連携協力の現状及び成果並びに課題等が報告された後、今後の連携について意見交換を行った。

・ 燕市教育委員会との連携事業

平成23年3月15日、燕市教育委員会と新潟大学教育学部との間で「連携協力に関する覚書」を手交した。これにもない、平成24年度より学習支援ボランティアの募集を行うこととなった。

今後、一層の連携協力が期待される。

5.4 新潟大学免許法認定公開講座

平成23年度 新潟大学免許法認定公開講座実施状況

講座名	学校臨床 心理学特論Ⅵ	キャリア 教育特論	美術教育 特論	国語科 教育特論	理科教育学 特論
講師名	神村 栄一 (教育学部准教授)	松井 賢二 (教育学部教授)	佐藤 哲夫 (教育学部教授) 柳沼 宏寿 (教育学部准教授)	足立 幸子 (教育学部准教授)	川勝 博 (名城大学教授) 興治 文子 (教育学部准教授)
受付期間	平成23年6月27日～平成23年7月13日				
実施日程	8月2日 8月3日 8月4日 8月5日	8月9日 8月10日 8月30日 8月31日	8月11日 8月12日 8月18日 8月19日	8月25日 8月26日 8月27日 8月28日	9月3日 9月4日 9月10日 9月11日
回数・時間数	4回・30時間				
募集人員	20人	20人	20人	20人	20人
受講者数	15人	3人	2人	12人	5人
単位修得者	15人	3人	2人	12人	5人

5.5 委員等就任状況

《主な委員就任状況》

新潟県・新潟県教育委員会

- 『新潟県文化財保護審議会委員』
- 『新潟県立近代美術館協議会委員』
- 『新潟県美術品収集委員会委員』
- 『環境審議会委員』
- 『新潟県原子力発電所の安全管理に関する技術委員会委員』
- 『新潟県住宅防火対策推進会議委員』
- 『キャリア教育実践研究会委員』
- 『新潟県消費生活審議会委員』
- 『青少年健全育成審議会委員』
- 『新潟県青少年問題協議会委員』
- 『新潟県にぎわいのあるまちづくり審議会委員』
- 『新潟県公害審査会委員』
- 『新潟県地域家庭教育推進協議会委員』
- 『新潟県国土利用計画審議会委員』
- 『新潟県屋外広告物審議会委員』
- 『新潟県技術振興委員会委員』
- 『新潟県健康ウォーキング推進検討会委員』
- 『新潟県住生活マスタープラン改定検討委員会委員』
- 『新潟県雪国の住環境改善検討委員会委員』
- 『新しい特別支援学校づくり検討委員会委員』
- 『特別支援学校就労支援検討委員会委員』
- 『新潟県キャリア教育推進会議』
- 『新潟県キャリア教育推進会議視察団委員』

新潟市・新潟市教育委員会

- 『新潟市社会教育委員』
- 『新潟市都市計画審議会委員』
- 『新潟市清掃審議会委員』
- 『新潟市健康づくり推進委員会委員』
- 『新潟市文化財保護審議会委員』
- 『新潟市美術館運営協議会委員』
- 『にいがた住まいの基本計画推進有識者会議委員』
- 『新潟市景観アドバイザー』
- 『新潟市発達障がい者支援体制整備検討委員会委員』
- 『就学指導委員会委員』
- 『新潟市特別教育サポートセンター専門家チーム委員』
- 『にいがた市民環境キャンパス推進委員』
- 『（仮称）こども創造センター基本計画検討委員会委員』

『新潟市人権教育・啓発推進懇談会委員』
『新潟市男女平等教育推進研究会委員』
『西区自治協議会委員』
『水と土の芸術祭実行委員会企画部会委員』

長岡市

『長岡市人権教育・啓発推進計画策定委員会委員』

新発田市

『新発田市景観アドバイザー』

燕市教育委員会

『ICT活用普及促進協議会委員』

佐渡市

『佐渡市環境アドバイザー』

文部科学省

『科学技術・学術審議会臨時委員』

国土交通省

『国土審議会特別委員』
『九州地区治水地形判定委員会委員』
『北陸地区治水地形判定委員会委員』
『信濃川水系学識者会議 下流部会委員』

環境省

『平成23年度越境大気汚染・酸性雨対策検討会検討員』

国際大学スポーツ連盟（F I S U）理事

上越教育大学

『上越教育大学CST養成事業実施委員会委員』

独立行政法人 国立青少年教育振興機構

『「子どもの読書活動と人材育成に関する調査」に係る研究会委員』

社会福祉法人 輝風会

『理事』 『評議員』

社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会

『新潟県高齢者大学運営委員会委員』

特定非営利活動法人 新潟県消費者協会

『理事』

財団法人 會津八一記念館

『評議員』

財団法人 新潟県中越大震災復興基金

『理事』

財団法人 尾瀬保護財団

『理事』 『評議員』 『尾瀬賞運営委員』

財団法人 日本学校保健会

『児童生徒の健康状態サーベイランス委員会委員』

財団法人 健康・体力づくり事業財団

『平成23年度厚生労働省セーフティネット支援対策等事業に係る委員』

全国健康保険協会新潟支部

『健康づくり推進協議会委員』

東日本高速道路株式会社

『新潟ハイウェイ懇談会委員』

物理チャレンジ・オリンピック日本委員会

『総務委員会委員』 『第一チャレンジ部会委員』 『派遣委員会委員』

新潟県女子体育連盟

第45回全国女子体育研究大会（新潟大会）実行委員会委員

6. 国際交流

6.1 学部教育の国際化事業

本学部では、学習社会ネットワーク担当教員が中心となって中国との教育・研究交流を続け、今年度で交流事業も11年目になります。交流内容は、(1)短期間の中国訪問による教育交流、(2)交換留学制度を利用した半年あるいは一年間の留学、(3)教員が相互に相手方大学を訪問して出張講義と充実しています。

(1) 中国訪問による教育交流

今年度も9月21日から27日まで、学生40名、大学教職員8名、附属学校教員2名が参加して中国を訪問しました。盛りだくさんの日程で、連日、朝6時の朝食、7時出発、様々な交流事業を行って夜10時過ぎにホテルに戻り、打ち合せを終えて真夜中過ぎにようやく眠りにつく、という厳しい旅行でしたが、学生たちの成長ぶりをみることでできた充実した訪問になりました。

9月21日に新潟空港を出発。韓国仁川国際空港を経由して北京に着きました。翌日は盧溝橋、抗日記念館、故宮を見学し、午後は北京聯合大学国際交流学院で各国から集まった留学生たちも交えての交流。23日は万里の長城を見学し、午後は空路で北京師範大学珠海分校に向かいました。24日の午前中は、半年をかけて準備した教材を使って300名近い珠海分校の学生たちの前で日本紹介と質疑応答。午後は珠海市の教育局と環境局のそれぞれの副局長が学生たちに特別講義をして下さいました。25日は、少人数グループに分かれ、それぞれに通訳の新潟大学学生と珠海分校学生が一人ずつ付いてマカオの歴史施設見学。翌26日は北京師範大学附属実験学校で学生たちによる日本紹介授業が行われました。

この間は連夜、盛大な宴会が続きます。最初は緊張していた学生たちですが、心の籠った熱烈なもてなしに触れ、回数を重ねるごとに堂々と、かつ心を開いて交流を深めるようになりました。中国側の学生との交流にも見違えるような積極性を見せるようになったのは、嬉しいことでした。

中国滞在中の通訳は全て、留学経験を持つ新潟大学学生が務めました。交換留学制度が設けられて3年目にして通訳の出来る学生が9名です。学生たちの見事な仕事ぶりに、同行した事務部長が「素晴らしいです。感動しました」と感嘆しきり。国際舞台での自然な振る舞いと自信あふれる言動に、学生たちの尊敬の目が集まりました。

留学経験者の6名の学生は訪中団の訪問に先立って現地入りし、留学中の学生も加わって訪中団のために、受け入れ側の大学との連絡、バス等の移動手段の確認と手配、歴史文化施設の下見、食事会場の手配等、八面六臂の活躍をしました。これら一つひとつがすべて、取り組んだ学生たちの力量を磨きます。

(2) 交換留学制度を利用した留学

今年度は、中国から後期6名の留学生を受け入れました。新潟大学教育学部からは前期9名、後期3名が留学しました。そのうちの1名は1年生です。来年度前期も、9名が留学します。後期についても、もう3名から申し込みがきています。せっかくのチャンスですので、多くの学生から留学してもらいたいと思っています。

(3) 出張講義

今年度も2月に、北京師範大学珠海分校の副学長ほか4名の先生が授業をしてく下さいました。新潟大学からも6月に4名の教官が集中講義に出かけました。来年度も出張集中講義の予定が組まれています。居ながらにして外国の大学の先生方の授業を受けることの出来る学生たちは幸せだと、つくづく思います。

6.2 学術交流（研究者の派遣・受入れ）

・研究者派遣

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
准教授	興 治 文 子	南アフリカ	国際会議Women in Physicsに参加	2011/ 4/ 4	2011/ 4/10	日本物理学会
教 授	加 藤 茂 夫	連合王国	第45回国際英語教育学会に出席	2011/ 4/14	2011/ 4/21	基盤教育経費、基盤研究経費
准教授	雲 尾 周	中国	国際交流事業打ち合わせ及び研究集会に参加、他	2011/ 4/21	2011/ 4/26	渡航費：北京師範大学 滞在費：北京師範大学、基盤教育経費
教 授	長谷川 敬 三	スペイン・ドイツ	等質空間上の複素幾何学に関する研究打ち合わせ	2011/ 5/ 3	2011/ 5/26	渡航費：バスク大学 滞在費：バスク大学、ハンブルグ大学
准教授	足 立 幸 子	米国	第56回国際読書学会年次大会に参加、他	2011/ 5/ 6	2011/ 5/12	受託事業費（教育研修センター委託金）
教 授	五十嵐 久 人	韓国	アジア大学スポーツ交流プロジェクトに関する打合せ会議に出席	2011/ 5/11	2011/ 5/13	学長裁量経費
准教授	大 庭 昌 昭	韓国	アジア大学スポーツ交流プロジェクトに関する打合せ会議に出席	2011/ 5/11	2011/ 5/13	基盤教育経費
教 授	五十嵐 久 人	カザフスタン・スイス	アジア大学スポーツ連盟・国際大学スポーツ連盟（FISU）理事会に出席	2011/ 5/20	2011/ 5/30	渡航費：国際大学スポーツ連盟 滞在費：国際大学スポーツ連盟、カザフスタン大学スポーツ連盟
教 授	滝 澤 かほる	ドイツ	ボーデ体操学校100周年記念体操発表会に出席及び資料収集	2011/ 5/20	2011/ 5/25	本人負担
教 授	五十嵐 久 人	アラブ首長国連邦	アラブ大学スポーツ連盟総会に出席	2011/ 6/24	2011/ 6/28	渡航費：日本オリンピック委員会 滞在費：アラブ首長国連邦大学スポーツ連盟
准教授	佐 藤 亮 一	米国	2011 IEEE AP-S国際シンポジウムに出席し、スペースセンシングに関する調査及び研究成果の発表	2011/ 7/ 5	2011/ 7/10	研究経費特別研究経費
教 授	滝 澤 かほる	スイス	第14回世界体操大会ワールドギムナストラダに出場及び視察調査	2011/ 7/ 8	2011/ 7/19	本人負担
准教授	興 治 文 子	タイ	第42回国際物理オリンピックに於ける諸外国の物理教育の情報収集	2011/ 7/ 8	2011/ 7/19	NPO法人 物理チャレンジ・オリンピック日本委員会
准教授	佐 藤 亮 一	カナダ	国際会議IGARSS2011に出席し、研究成果を発表	2011/ 7/23	2011/ 7/31	研究経費特別研究経費
教 授	郷 晃	ルーマニア	Zeicani彫刻シンポジウムでの彫刻制作及び資料収集	2011/ 7/27	2011/ 8/19	渡航費：基盤教育経費、基盤研究経費 滞在費：Inter Metaco(Zaicani彫刻シンポジウム主催団体)
教 授	五十嵐 久 人	中国	第26回夏季ユニバーシアード大会及び理事会	2011/ 8/ 5	2011/ 8/24	渡航費：国際大学スポーツ連盟 滞在費：第26回ユニバーシアード大会深圳組織委員会

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
教授	長岡成夫	ドイツ・スイス	ヨーロッパ医学・医療哲学学会第25回大会に参加	2011/ 8/11	2011/ 8/23	本人負担
准教授	興治文子	メキシコ	物理教育国際会議ICPE2011で研究発表、他	2011/ 8/14	2011/ 8/21	科研費 若手研究(B)
准教授	小野映介	パプアニューギニア	研究課題(微量元素からとらえる環境利用と文化的適応の地理学的研究)に関する現地調査	2011/ 8/17	2011/ 8/27	科研費 基盤研究(A) (代表者:立教大学・野中健一)分担金
准教授	大庭昌昭	中国	アジア大学スポーツ交流プロジェクトによるスポーツイベントへ学生引率	2011/ 8/22	2011/ 8/26	新潟大学G P 予算
准教授	村山敏夫	中国	アジア大学スポーツ交流プロジェクトによるスポーツイベントへ学生引率	2011/ 8/22	2011/ 8/26	新潟大学G P 予算
教授	伊野義博	ブータン	ブータンの民族音楽・民族芸能研究	2011/ 8/28	2011/ 9/ 4	本人負担
准教授	一柳智紀	イタリア	ISCAR Roma 2011における学会発表及びバフチンに関する研究打ち合わせ	2011/ 9/ 4	2011/ 9/13	本人負担
教授	鈴木賢治	ドイツ	第6回中性子・放射光による応力評価の国際会議で講演	2011/ 9/ 4	2011/ 9/12	科研費 基盤研究(C) (代表:鈴木賢治)
教授	松澤伸二	フィンランド	フィンランドの英語教育視察及び英語指導モデルに関する研究打ち合わせ	2011/ 9/ 8	2011/ 9/16	科研費 基盤研究(B) (代表:明海大学・高田智子)分担金
准教授	佐藤亮一	イタリア	2011電磁気学の発展的応用に関する国際会議で研究成果の発表、他	2011/ 9/10	2011/ 9/16	科研費 基盤研究(C) (代表:佐藤亮一)
准教授	麓慎一	ロシア	「ロシア・中国を中心とする在外日本関係資料の調査・分析と研究資源化の研究」の研究	2011/ 9/16	2011/ 9/30	科研費 基盤研究(A) (代表:東京大学・保谷徹)
准教授	岸本功	チェコ	第4回弦の場の理論に関する国際会議(String Field Theory 2011) 研究発表	2011/ 9/17	2011/ 9/26	科研費 基盤研究(C) (代表:奈良女子大学・高橋智彦)分担金、 科研応募支援プログラム経費
教授	相庭和彦	韓国・中国	北京聯合大学及び北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2011/ 9/21	2011/ 9/27	学長裁量経費
准教授	上石圭一	韓国・中国	北京聯合大学及び北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2011/ 9/21	2011/ 9/27	学長裁量経費
教授	伊野義博	韓国・中国	北京聯合大学及び北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2011/ 9/21	2011/ 9/27	学長裁量経費
教授	大浦容子	韓国・中国	北京聯合大学及び北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2011/ 9/21	2011/ 9/27	学長裁量経費
准教授	雲尾周	韓国・中国	北京聯合大学及び北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2011/ 9/21	2011/ 9/27	学長裁量経費
准教授	杉澤武俊	韓国・中国	北京聯合大学及び北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2011/ 9/21	2011/ 9/26	学長裁量経費
准教授	中島伸子	韓国・中国	北京聯合大学及び北京師範大学珠海分校との教育研究交流	2011/ 9/21	2011/ 9/27	学長裁量経費
准教授	佐藤亮一	韓国	国際会議APSAR2011で研究成果を発表	2011/ 9/25	2011/ 9/30	研究経費特別研究経費

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
准教授	上石圭一	韓国	第2回東アジア法と社会学会出席及び法曹養成の比較研究の打ち合わせ	2011/9/29	2011/10/3	科研費 基盤研究(C) (代表:上石圭一)
教授	長谷川敬三	ロシア	複素幾何学シンポジウムで講演、他	2011/10/2	2011/10/14	科研費 基盤研究(C) (代表:長谷川敬三)
教授	五十嵐久人	台湾	2017年夏季ユニバーシアード大会開催都市評価訪問	2011/10/14	2011/10/19	渡航費:国際大学スポーツ連盟 滞在費:台湾学生スポーツ連盟
教授	松井賢二	連合王国	英国の大学等でキャリア教育に関する研究打ち合わせ及び研究資料収集	2011/10/21	2011/10/31	科研費 基盤研究(C) (代表:松井賢二)
准教授	麓慎一	中国	中国海洋大学の研究会で東アジアにおける中国海産物に関する研究発表、他	2011/10/24	2011/10/28	科研費 挑戦的萌芽研究(代表:麓慎一)
教授	相庭和彦	中国	北京師範大学珠海分校主催の伝統文化と生涯学習フォーラムに参加	2011/10/27	2011/10/31	科研費 基盤研究(B) (代表:京都大学・渡邊洋子)分担金
教授	五十嵐久人	ブラジル	2017年夏季ユニバーシアード大会開催都市評価訪問	2011/11/1	2011/11/8	渡航費:国際大学スポーツ連盟 滞在費:ブラジル学生スポーツ連盟
准教授	杉村桃子	ニュージーランド	Development and Evaluation of High Performance Wool Fabrics セミナーに出席	2011/11/7	2011/11/14	金沢大学
教授	松井賢二	フィンランド	フィンランドのキャリア教育を視察	2011/11/14	2011/11/19	新潟県教育委員会
准教授	高清水康博	ポルトガル 沖合の大西洋	IODP Exp 339 Mediterranean Outflow 参加	2011/11/15	2012/1/19	独立行政法人 海洋研究開発機構
准教授	興治文子	台湾	国際シンポジウムで研究発表	2011/11/16	2011/11/19	科研費 若手研究(B)
准教授	山口智子	台湾	ICoFF2011学会に出席	2011/11/19	2011/11/23	科研費応募支援経費
准教授	麓慎一	ロシア	新潟大学プロジェクト推進経費の課題にかかる資料調査	2011/11/19	2011/11/29	新潟大学プロジェクト推進経費 発芽研究
教授	鶴田一雄	中国	北京師範大学珠海分校及び南興実験学校訪問	2011/11/23	2011/11/26	教育学部における教員養成プロジェクト、基盤教育経費
教授	佐藤哲夫	ハンガリー・オーストリア・チェコ	平成23年度地域美術研修に係る学生引率	2011/11/24	2011/12/2	基盤教育経費
准教授	柳沼宏寿	ハンガリー・オーストリア・チェコ	平成23年度地域美術研修に係る学生引率	2011/11/24	2011/12/2	基盤教育経費
教授	五十嵐久人	ベルギー	国際大学スポーツ連盟(FISU)理事会に出席	2011/11/25	2011/12/1	国際大学スポーツ連盟
准教授	足立幸子	米国	第61回リテラシー研究学会に参加	2011/11/29	2011/12/4	受託事業費(教員研修)
准教授	佐藤佐敏	台湾	台湾におけるPISA型学力向上にかかわる調査	2011/12/1	2011/12/4	上越教育大学

職名	氏名	渡航先国	主たる用務	出発日	帰国日	費用の出所
教授	五十嵐 久人	タイ	アジア大学スポーツ連盟 (AUSF) 理事会に出席	2011/12/ 8	2011/12/13	渡航費；日本オリンピック委員会 滞在費；タイ国大学スポーツ連盟
教授	藤林 紀枝	オマーン	地学教材の調査研究	2011/12/17	2012/ 1/ 3	科研費 挑戦的萌芽研究 (代表：新潟大学・小林昭三) 分担金、寄付金
教授	宮 蘭 衛	韓国	科研費補助金による環境教育授業開発のための打ち合わせ	2011/12/25	2011/12/27	科研費 基盤研究(C) (代表：宮蘭衛)
教授	相庭 和彦	中国	科研費課題について今後の打ち合わせ	2011/12/26	2011/12/28	科研費 基盤研究(B) (代表：京都大学・渡邊洋子) 分担金
准教授	足立 幸子	フランス	フランスの読書教育調査	2012/ 1/ 1	2012/ 1/ 9	科研費 基盤研究(C) (代表：足立幸子)
教授	長谷川 敬三	ドイツ	研究打ち合わせ及び研究会 (Lie Groups) に出席	2012/ 1/ 6	2012/ 1/15	科研費 基盤研究 (A) 分担金、研究活動等支援経費、基盤研究経費、Ruhr大学
准教授	柳 沼 宏 寿	オーストラリア	シネリテラシーに関する調査	2012/ 2/26	2012/ 3/ 2	科研費 基盤研究(C) (代表：柳沼宏寿)
准教授	高橋 桂子	シンガポール	共働き夫婦の家事分担・メイド雇用などに関するヒアリング調査のため	2012/ 3/ 3	2024/ 3/ 8	現社研共通旅費 (現社研予備費 (教育))
教授	大浦 容子	中国	交流協定大学との訪中事業打ち合わせ及び留学生指導	2012/ 3/13	2012/ 3/16	学長裁量経費
教授	相庭 和彦	中国	交流協定大学との訪中事業打ち合わせ及び留学生指導	2012/ 3/13	2012/ 3/16	学長裁量経費
准教授	雲 尾 周	中国	交流協定大学との訪中事業打ち合わせ及び留学生指導	2012/ 3/13	2012/ 3/16	学長裁量経費
准教授	石垣 健二	ドイツ	ドイツスポーツ大学シュールマン教授との研究協議	2012/ 3/15	2012/ 3/23	科研費 基盤研究(C) (代表：石垣健二)
教授	清水 研作	ドイツ・オーストリア・スイス・イタリア	南西ドイツフィルハーモニー交響楽団による作品初演及び資料収集	2012/ 3/17	2012/ 4/ 1	現社研共通旅費 (現社研予備費 (教育))
教授	五十嵐 尤二	ドイツ	素粒子の対称性に関する共同研究打ち合わせ	2012/ 3/24	2012/ 3/31	補助金
教授	宮 蘭 衛	韓国	科学研究補助金 基盤研究 (C) による調査	2012/ 3/27	2012/ 3/31	科研費 基盤研究(C) (代表：宮蘭衛)
教授	鈴木 恵	中国	北京師範大学実験小学との国際交流	2012/ 3/27	2012/ 3/30	教育学部における教員養成プロジェクト経費

7. 附属施設の活動

7.1 附属新潟小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

附属新潟小学校では、初等教育全般にわたり、その理論と実践について研究を深めている。さらに、複式学級における学習指導の在り方を研究している。

今年度は研究主題「創造的思考力を高める授業 - 2年次研究-」の下で、指定研究授業（17回）、拡大部内研究授業や中間検討会における授業公開、初等教育研究会における授業公開等、授業公開及びその前後における学習指導案検討、授業協議会を含めた教育研究を全教科等について推進している。

その成果は、全国各地から1,500名程の参加者が集う2月開催の初等教育研究会において、また、「研究紀要 第69集 創造的思考力を高める授業」（年1回発行）、研究誌「授業の研究（F・ねつと）」（年3回発行）、さらに、『「学級力」を鍛え授業で発揮させる』（2012年3月刊行）において公表し、地域をはじめ県内外の多くの学校に還元している。

② 教育実習生の受け入れと指導

新潟大学教育学部学生の教育実習を指導し、次代を担う教育者の育成を行うことも当校の使命の一つである。今年度の受け入れは次のとおりであった。

- a. 入門教育実習（1年生15名、6月～10月）
- b. 観察参加実習（2年生77名、9月5日～9日）
- c. 春期教育実習（3・4年生と別科生29名 6月7日～18日）
- d. 秋期教育実習（3年生、大学院生、別科生、30名 10月23日～11月5日）
- e. 研究教育実習（3年生6名 2月～3月）

③ 新潟小学校・新潟中学校・特別支援学校三校の教育理念に基づく取組

新潟地区附属三校では「知を求め共生の心をもつ創造性豊かな子どもの育成」を共通の教育理念として掲げ、「軽度発達障害児教育研究班」「附属新潟小・中学校教育課程研究班」「附属特別支援学校教育課程研究班」「異文化交流研究班」の四つの研究班を中心に、学部教員と連携を深めながら活動を展開している。当校における本年度の主な取組は以下のとおりである。

- a. 小中9か年を見通した教育活動
 - ・子どもの学びを支える方法や技能を「学習スキル」としてとらえ、各学年の発達段階に応じた学年別系統一覧表を作成し、それに基づく指導、評価、改善を実施。
 - ・小学校で開催した初等教育教育研究会の「学習スキルフォーラム」部会において、中学校研究主任より小中連携の視点から成果と課題について意見発表。
- b. 小学校・中学校・特別支援学校の交流活動
 - ・ペアシステムによる小学校低・中学年複式学級と特別支援学校小学部との交流活動。
 - ・展覧会での特別支援学校作品の展示。
- c. 異文化交流活動
 - ・平成24年3月に、交流協定を結ぶ北京師範大学実験小学校を、児童7名（5年生4名、6年生3名）とともに訪問。実験小学校の歓迎行事や授業と一緒に参加するなどして終日を過ごし、異文化理解、友好親善の精神を育んだ。

④ 食に関する指導等、健康教育に関する取組

- ・体育や特別活動等の時間、給食の時間等を活用し、栄養教諭による食に関する指導を実施した。

- ・児童の生活実態調査結果を踏まえて、学校保健委員会において取組について検討を行った。
- ・健康教育の組織的な推進の在り方について、初等教育研究会においてその理論と具体とを示した。
- ・総合的な学習時間においても調理員さんとの交流も行うなど、多面的な指導を

⑤ 学びを生かした児童の主な活躍

- ・新潟県競書大会優秀団体賞受賞
- ・新潟県教書大会、新潟県書き初め大会など各種大会入賞多数
- ・青少年読書感想文コンクール優秀賞受賞
- ・第42回ジュニア展奨励賞入賞多数
- ・第8回新潟教育アート展優秀賞、奨励賞など入賞者多数
- ・2011年度新潟市花火の絵コンテストグランプリ賞、審査員奨励賞など上位賞受賞多数
- ・第47回新潟市児童・生徒科学教育研究会発表者多数

⑥ その他

- ・当校教員の学部授業への参加 4名5回
- ・県内外公立学校及び研究団体への職員派遣：8名16回
- ・教員研修の受け入れ：初任者研修1回、新採用養護教諭研修1回
- ・視察受け入れ：3回

(2) 研究会、講演会の開催

① 平成23年度附属新潟小学校中間検討会

- 日時 2011年9月28日（水）
- 会場 附属新潟小学校
- テーマ 「創造的思考力を高める授業 - 2年次研究 -」
- 内容 公開授業・全体会（研究全体概要の説明等）・分科会（個人研究の説明、協議、指導等）
- 参加者 学部教員、県・市教育委員会指導主事、県内の市内公立校校長・教頭・教諭 約80名

② 平成23年度初等教育研究会

- 日時 2012年2月9日（木）・10日（金）
- 会場 附属新潟小学校
- テーマ 「創造的思考力を高める授業 - 2年次研究 -」
- 内容 CCT・公開授業・全体会・授業協議会・フォーラム・講演
講演：桑山裕明（日本放送協会制作局第1制作センター 青少年・教育番組部 チーフ・プロデューサー）
演題：「思考力を育てる伝える力」
- 参加者 学部教員、県・市教育委員会指導主事、県内・県外の教員等、合計約1,500名

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

- 『研究紀要 第69集創造的思考力を高める授業』（年1回発行）
- 『授業の研究（F・ねっと）』（第179号、第180号、第181号：年3回発行）
特集「創造的思考力を高める授業Ⅱ ～「活用型」授業づくりと、学習スキル・学級力～」
- 「学級力」を鍛え、授業で発揮させる 2012年3月 明治図書
- 学習スキルで子どもが変わる授業が変わるPart 3

② 教員の著書・論文・研究発表

- ・井上幸信「卒業生に贈る、はなむけの国語授業」『教育科学国語教育』2012年3月（明治図書）
- ・井上幸信「学習記録・ポートフォリオ」日本国語教育学会編『国語教育総合事典』（朝倉書店）2011

年12月

- ・井上幸信「だれが来たらおもしろい？（おおきなかぶ）」全国国語教育研究会編『読解力を育てる～言語活動の充実をどう図るか』2011年7月（東洋館出版社）
- ・井上幸信「発見と感動のある授業で言葉の学びを楽しむ」『基幹学力の授業国語&算数 第29号』2011年6月（明治図書）
- ・榎根 浩 「授業力&授業統率力8月号」2011年8月（明治図書）

7.2 附属新潟中学校

(1) 特色ある教育活動

① 新潟地区附属三校総括目標を具現化するための取組

- a. 実践研究「未来を拓く『学ぶ力』を育む教育課程の編成－思考力・判断力・表現力を高める学び－」の推進

前次「未来を拓く『学ぶ力』を育む授業」において、生徒が問題解決を図る際に発揮する思考技能を「学ぶ力」と定義し、3年間の研究の中で、これからの社会をたくましく生き抜くために必要な「学ぶ力」を明らかにし、その「学ぶ力」を育むための手だてを明らかにした。



また、文部科学省研究開発指定研究（H19.4～H22.3）で取り組んだ「学習スキル」との融合を図り、「教科の枠を越えて発揮させる『学ぶ力』」を「思考スキル」と捉え直し、様々な状況に応じて、最善の「学ぶ力」を方略として選択し、それを活用して問題を解決していく生徒の育成を図った。

これらの成果を生かし、今年度はすべての教育活動において、「学ぶ力」を用いさせることを通して、思考力・判断力・表現力を育成していくことをねらい、研究主題を「未来を拓く『学ぶ力』を育む教育課程の編成－思考力・判断力・表現力を高める学び－」とし、実践研究に取り組んだ。1学年の「学習スキルの定着を図る授業」に加え、2、3学年における「思考スキルの汎用性を高める授業」を行ったことにより、教科や総合的な学習の探究学習にも生かせるようにした。

また、思考力・判断力・表現力を育成するために、附属新潟小学校との連携を密にし、「活用型学力を育成する9カ年間教育課程と指導法の開発」に取り組んだ。小学校で身に付けた学習技能である「書くスキル」「聞くスキル」「話すスキル」「読むスキル」「調べるスキル」「評価するスキル」「見通すスキル」や「創造的思考力」を基にして、中学校で「対比スキル」「仮定スキル」「帰納スキル」等の思考技能を効果的に用いさせ、課題解決を図る生徒の育成を図った。

- b. 交流活動の推進

- ア. 中学校1年生と附属特別支援学校中等部生徒とのペアシステムによる交流活動

「発表会を成功させよう」という昨年度までとは異なり、今年度は「一緒にスポーツを楽しもう！」という共通の目的をもって、作戦を立てたり、練習を一緒にしたりして、関わりを深めた。

- イ. 中学2年生の「沖縄の旅」における交流活動

平成24年2月7日（火）～10日（金）に実施した2年生「沖縄の旅」では、民泊を2泊行った。生徒は、実際の沖縄での家庭生活を体験し、民泊先の家族との交流を深めたり、平和学習をしたりする中で、互いの文化の違いやよさを実感していくことができた。

② 学部と連動した活動

- a. 学校インターンシップの受け入れ

社会科の大学院生による学校インターンシップを受け入れ、実際の教育活動や学習活動に携わった。

- b. 学部教員および学生との共同研究

ア. 英語科において、新潟大学教育学部「教育実践研究1」受講者20名が授業を参観し、指導技術について学習した。

- c. 研究会等における学部教員との連携の強化

ア. 授業研究会では、11名の学部教員の方々から指導をいただいた。

イ. 秋の研究発表会では、協議会において、8名の学部教員の方々から指導をいただいた。

ウ. 冬の研究発表会では、協議会において、4名の学部教員の方々から指導をいただくとともに、1名の学部教員から講師として講演をしていただいた。

③ 危機管理に関する活動（小中合同避難訓練の実施）

附属新潟小学校、附属特別支援学校と同一敷地内に校舎が位置していることから、不審者が侵入した際の通報と安全確保の訓練を合同で実施した。

(2) 教育実習

① 期日、受入人数

- | | | |
|------------|--------------------|--------------|
| a. 春期教育実習 | 6月6日（月）～17日（金） | 24人（うち母校実習2） |
| b. 2年次観察実習 | 9月5日（月）～9日（金） | 106人 |
| c. 秋期教育実習 | 10月24日（月）～11月4日（金） | 21人 |
| d. 1年次入門実習 | 年間3回合計3日間 | 12人 |

② 特色ある実習内容

- 春期教育実習、秋期教育実習において、道徳の指導案を作成し、学級ごとに検討・修正したものを基に授業を行った。
- 2年次観察実習において、同一敷地内にある小学校を参観する機会をもった。

(3) 研究会、講演会等の実施

① 授業研究会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「未来を拓く『学ぶ力』を育む教育課程の編成－思考力・判断力・表現力を高める学び－」）

- 5月～7月（各教科で日時を設定）全必修教科で授業研究を行った。全教科とも、学部教員や行政関係者が参観した。また、すべての教科において、公立校の教員も授業を参観し、協議会にも参加した。
- 10月3日（月） 国語、社会、数学、理科、美術、技術、英語、地域学、学習スキルの各教科、取組において、学部教員や行政関係者、公立校の教員とともに、中学校研究発表会に向けて授業案の検討を行った。
- 1月（各教科で日時を設定）音楽、保健体育、食育、思考スキルの各教科、取組において、学部教員や行政関係者、公立校の教員とともに、冬の研究発表会に向けて授業案の検討を行った。

② 平成23年度中学校研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「未来を拓く『学ぶ力』を育む教育課程の編成－思考力・判断力・表現力を高める学び－」）

- 期日 10月14日（金）
- 内容 授業公開（国語、社会、数学、理科、美術、技術、英語、地域学、学習スキル）
授業協議会
- 参会者 学部教員、市教育委員会指導主事、県内外教員、学生 他 合計359人

③ 平成23年度冬の研究発表会（会場 附属新潟中学校）（テーマ「未来を拓く『学ぶ力』を育む教育課程の編成－思考力・判断力・表現力を高める学び－」）

- 期日 1月27日（金）
- 内容 授業公開（音楽、保健体育、食育、思考スキル）、授業協議会、講演会
- 講演会 講師 中村敦雄（群馬大学）、大熊信彦（国立教育政策研究所）、森泉哲也（文部科学省）、岡出美則（筑波大学）、佐藤佐敏（新潟大学）
- 参会者 学部教員、市教育委員会指導主事、県内外教員、学生 他 合計369人

④ その他

- 初任者研修授業研修協力校

- ア. 期 日 6月7日(火) 10月25日(火)
- イ. 参加者 下越教育事務所管内初任者 小学校11人、中学校30人
下越教育事務所指導主事、当校職員
- ウ. 内 容 授業公開(各教科)、研究協議、講話、演習
- b. 学校視察の受け入れ
茨城県立太田第一高等学校 教諭2名 (10月27日)

(4) 研究報告等

① 研究誌

- a. 研究紀要 未来を拓く「学ぶ力」を育む教育課程の編成－思考力・判断力・表現力を高める学び－
(2年次) 公開授業案 (10月14日発行)
- b. 研究誌 冬の研究発表会 公開授業案 (1月27日発行)
- c. 研究書籍 「この思考スキルで高める思考力・判断力・表現力」(1月27日明治図書より発刊)

② 主な職員の著作・論文・研究発表等 <2011年4月～2012年3月>

- ・ 津野庄一郎 原稿執筆「新聞活用の工夫提案」N I Eガイドブック中学校編
社団法人 日本新聞協会 2012年2月
原稿執筆「中学生と新聞」新潟日報社 2012年1月
- ・ 玉井 博史 研究発表 第74回国語教育全国大会発表
研究発表 平成23年度日本国語教育学会新潟県支部研究会発表
研究発表 新潟大学教育学部国語国文学会平成23年度研究大会
- ・ 南 昌弘 研究発表 新潟大学教育学部国語国文学会平成23年度研究大会
- ・ 関谷 卓也 原稿執筆 「楽しさ・正しさ・不思議さ・美しさ 算数学」
新潟 算数・数学を楽しむ会 発行
- ・ 中澤 健太 原稿執筆「教科研究理科」学校図書
- ・ 稲生 一徳 原稿執筆『美術教育』No.826 2011.4 (財)教育美術振興会
原稿執筆『Art Link 造形・美術授業実践事例集』 2011.5 (株)日本文教出版
原稿執筆『生徒指導提要対応 エンカウンター・エクササイズ12か月 中学校』
2011.8 (株)明治図書
研究発表 第51回関東甲信越静地区造形教育研究大会発表 2011.8.4～5
- ・ 大岩樹生、内藤浩悟 原稿執筆「表現力・発信力を育てる評価」
『英語教育5月号』2011.4 大修館

7.3 附属特別支援学校

1. 特色ある活動

(1) 連携・交流活動

【新潟地区附属三校交流活動】

- ・附属新潟小学校ミュージアム作品参加（行事交流）
- ・小集団グループによる授業交流：小学部3～6年生児童と附属新潟小学校中学年複式学級児童、中学部生徒と附属新潟中学校1年生徒（授業交流）
- ・小学部1～2年生児童と附属新潟小学校低学年及び高学年複式学級児童との授業交流（授業交流）

【発達障害児教育】

- ・学部教官研究室の関係者と研究授業協議会の実施
- ・新潟県内高等学校1校へ支援協力
- ・新潟市内中学校主催支援会議への参加 32校延べ84回

【学部との連携活動】

- ・当校教員が講師として学部講義への参加：教育実習事前指導7回、延べ6人
- ・教員免許状更新講習にゲストスピーカーとして参加、2人
- ・学生ボランティアの登録：登録62人
- ・行事等の学生ボランティアの参加：運動会11人、特別支援教育研究会48人
すなやま祭17人、学部・学級行事37人

【学生との連携・交流活動】

- ・中、高等部保護者有志と学生ボランティアが運営する放課後活動（すなやまクラブ）への支援、会場提供：月2回程度開催

【地域との連携・交流活動】

- ・医学祭作品展示

【卒業生との交流活動】

- ・第1回すなやま会（同窓会）の開催。高等部行事「卒業生を囲む会」を併せて設定。（8月27日開催。高等部生徒30、卒業生50、卒業生保護者14、旧職員11人、現職員17人参加）
- ・第2回すなやま会の開催。学校行事「すなやま祭」開催日に併せて設定（2月4日開催。卒業生54人、卒業生保護者17人参加）

【新潟市との連携】

- ・放課後支援事業ほっぷこーんクラブ（すなやまの家を会場に提供）延べ約2,900人利用

(2) 特別支援教育のセンターとしての地域貢献

【特別支援教室の開設】

- ・特別支援教室：新潟市内中学生25人週1回定期支援、2人不定期支援
- ・教育相談：定期（週1回程度）は2人、不定期は多数

【教育相談・支援活動】

○研究会・研修会講師等

- ・新潟市立小針小学校校内研修講師 齋藤 いずみ教頭（他2回）
- ・新潟市教委コーディネーター研修講師 今井 信郎（他12回）
- ・県初任者研修講師 風間 昌幸（他1回）
- ・新潟市立牡丹山小学校校内研修講師 中野 久美 中村義和
- ・新潟市立山田小学校校内研修講師 横堀 壮昭 八藤後 和男

- ・新潟市立早通南小学校校内研修講師 廣川 豊士
- ・新潟市立白根第一中学校校内研修講師 朝妻 裕祐
- ・新潟県介護福祉士会研修講師 八藤後 和男

(3) 実習生・研修生の受け入れ

【学部】

- ・入門教育実習生の受入：1年生14人（5月28日、8月26日、9月16日）
- ・教育実習生の受入（春期：24人 秋期：29人）
- ・養護教諭特別別科1日観察参加実習：48人（12月2日）
- ・介護等体験生の受入（年間10回、合計301人）

【新潟県】

- ・教員研修の受入 初任者研修学校参観（6月21日 22人）

(4) 学校行事等

【学校行事】

- ・運動会
- ・学習発表会、鑑賞教室
- ・現場実習等（高等部：時期や個人に応じて年間を通して設定、中学部：1～3日間）
- ・校内宿泊学習（全学部実施「すなやまの家」に宿泊）
- ・校外宿泊学習（中学部：胎内市、高等部：水上市）
- ・親子サマーレクリエーション（小学部PTA）
- ・もちつき大会（中学部PTA）
- ・スキー・そり教室（全学部）
- ・卒業生を送る会（全学部）

【PTA保護者関係】

- ・小・中・特別支援学校PTA指導者研修会参加
- ・全国国立大学附属学校園 関東・北信越・東海地区PTA研修会参加
- ・新潟地区特別支援学校知的障害教育校6校PTA懇談会参加
- ・全附連北信越地区研修会長岡大会特別支援学校部会参加
- ・附属新潟3校学校保健委員会参加

【学校評議員会】

- ・学校評議員会・学校関係者評価委員会の開催 年間3回

2. 研究会、公開講座の開催

(1) 研究会

- ・第34回特別支援教育研究会（10月21日開催）
研究主題：明日をきり拓く「自己実現に向かう力」を育てる支援（第2年次）
参加者数：420名

(2) 公開講座

- ・第1回公開講座：4日にわたり4回（6月1日、6月15日、6月29日、7月13日）開催
テーマ：「新潟大学方式 親のスキル訓練2011」
講師：教育学部障害児教育講座 長澤 正樹 教授、参加者数：37人

3. 研究報告等

(1) 研究会開催にかかわる実践発表

- ・研究紀要 第34集「明日をきり拓く『自己実現に向かう力』を育てる支援（第2年次）」

(2) 執筆依頼等に応じた実践発表

- ・佐藤 宏充「一人一人の活動と参加を高める領域・胸化をあわせた指導」
～知的障害児の自立を目指して～ 明治図書

7.4 附属幼稚園

(1) 特色ある活動

① 幼児教育研究の推進

附属長岡校園では、22年度より文部科学省の研究開発指定を受け、幼小中一貫教育研究に取り組んでいる。「社会的な知性を培う」を研究テーマとして、子どもたちに持続可能な社会を創り上げる資質・能力をはぐくむ12年間のカリキュラム開発を目指している。

幼小中一貫教育研究では、12年間で5つのステージに分け、発達段階を考慮したカリキュラムの編成を行ってきた。幼児教育では、3歳児から5歳児前半を第1ステージに位置付け、遊びを通して、資質・能力の「芽」をはぐくみ、「ひと・もの・こと」への愛情・愛着の形成を図ってきた。そのための環境構成の在り方がどうあるべきか、子どもの事実を基に、分析し考察を行った。

5歳児後半からは、第2ステージとして小学校1年生との「異年齢協働探究型学習」に取り組んだ。幼児の学びと小学生の「学習」の様相を明らかにしながら、「遊び」から「学習」への円滑な接続と系統的な資質・能力のはぐくみをねらってきた。

② 教育実習生の受け入れと指導

新潟大学教育学部の教育実習生を受け入れ、次代を担う幼稚園教員を育成する。

<今年度の受け入れ状況>

- a. 入門教育実習 (1年生延 37名 5月13日・26日、7月4日)
- b. 春期教育実習 (3年生 9名 6月6日～17日)
- c. 観察参加実習 (2年生 5名 9月5日～9日)
- d. 秋期教育実習 (実習生配属なし 10月24日～11月4日)

③ 連携理念に基づく教育活動の推進

附属長岡校園は同一敷地内に幼稚園・小学校・中学校があり、全て廊下でつながっている。この立地条件を生かし、幼小中の一貫教育を行っている。特に幼稚園と小学校では、教育のなめらかな接続を図るため「接続期」を設けている。接続期の期間は、幼稚園5歳児11月から小学校1年生7月までである。

また、「幼・小・中合同大運動会」や「合同避難訓練」も行っている。

- a 幼児と児童の遊びの交流
- b 観客型連携による相互訪問
- c 中学生の保育参観、遊びの紹介 小学生との遊び
- d 5歳児の小学校との合同単元開発授業・保育
- e 研究授業・保育への教師の相互参観
- f 授業・保育交流

④ 学部との連携

- a 大学教員による講演会・研修会 (ペン習字研修会・読み聞かせ研修会・研修旅行)



⑤ 北京師範大学南奥実験学校との交流

a 北京師範大学珠海分校・南奥実験学校を訪問 11月24日～26日

⑥ 教育機関との連携

今年度も県教育センターと連携し、県内の幼稚園教員を対象として新採用教員を対象とした研修会を実施した。

* 新潟県幼稚園等新規採用教員研修会（12名 11月29日～30日）

⑦ 楽しい園行事

4月：春の交通安全教室 こんにちはの会 お花見散歩	11月：秋の家族参加日（昔の遊び） 作品展
5月：悠久山春遠足	12月：外国の方とのふれあい会
6月：プール開き 親子バス遠足（県立自然科学館）	1月：お正月お楽しみ会（餅つき） お正月お楽しみ会（カルタ取り） そり遠足（国営越後丘陵公園）
7月：七夕会	2月：豆まき会
9月：校園合同運動会 秋の交通安全教室	3月：お別れ会
10月：悠久山探検遠足 秋を楽しむ会	

(2) 研究会、講演会の開催

① 平成23年度教育研究協議会

ア 開催日 平成23年10月20日（木） 幼・小・中合同研究協議会

イ 会場 附属長岡校園各教室・保育室・体育館等

ウ 内容 研究主題にもとづく保育を公開し、全体発表、協議会をもつ。その後、講演会・一貫教育フォーラムを開催する。

〈講演会〉

講師 文部科学省初等中等局主任視学官 田中孝一様

演題 「新教育課程は何を目指すか」

〈一貫教育フォーラム〉

コーディネーター・基調講演講師 千葉大学教育学部教授 天笠 茂 様

パネリスト 島根大学教育学部附属小学校附属学校主事 伊藤 英俊 様

柏崎市立柏崎小学校教務主任 栞山 仁志 様

新潟大学教育学部附属長岡校園研究開発部長 佐藤 満

エ 参加者 幼稚園、保育所（園）、小学校教員 87名

⑦ 幼稚園視察の受入

県内幼稚園新採用教員 新採用教員を12名受け入れ（11月）

北京師範大学珠海分校南奥実験学校より教員5名 長岡校園を訪問（2月7日）

⑧ 研究報告等

研究紀要「社会的な知性を培う」第2年次
県国公立幼稚園研究集録「私たちの幼稚園は今」



開園110周年記念祝賀会



園開放日の様子（入園希望幼児来園）



教育実習生との対面式



社会創造科（小学生との昔の遊び）

7.5 附属長岡小学校

(1) 特色ある活動

① 初等教育研究の推進

昨年度より、文部科学省研究開発指定を受け、新研究がスタートした。新研究では、「社会的知性」を培うための幼小中連携による協働探求学習カリキュラムと「知」の循環型教育システムの研究開発を目指して第2年次研究を推進した。また、幼小中12年間を5つのステージに再構成し、協働探求学習カリキュラムを開発し、新設教科「社会創造科」も実践しながら、「知」の循環型教育システムを提言してきた。

平成23年度から新学習指導要領完全実施となり、「確かな学力」をはぐくむため、「習得」や「活用」と「探求」を関連づけて指導するカリキュラム編成と授業改善が課題となっている。こうした教育界の動向も踏まえ、「社会的な知性を培う」第2次研究を進めてきた。その目的は、互いを尊重し合う人間関係を築き、学んだ知識や培ってきた力を生かしながら、人々の暮らしや環境、社会の諸問題へ目を向け、持続可能な社会を創り上げていくために、自ら考え、判断し、実践する「社会的な知性」を培うことである。

主な研究の内容は、次のとおりである。

- ア. 小・中学校の各教科等の学習において、他との関わりの中で学びが深まる「協働型学習」の在り方を提案する。また、幼小中合同の「幼小中合同活動」を開発する。
- イ. 新教科「社会創造科」を新設し、異学年・地域・大学・博物館・高校・NPO・保護者等との連携によって、大人＝青年＝生徒＝児童＝幼児による多様な「異学年協働探究学習」カリキュラムを開発する。
- ウ. 各個人が学習を通して獲得したさまざまな経験や知識等の「知」が社会的に循環し、それが更なる創造を生み出す「知」の循環型教育システムを開発する。

これらのことを課題として研究を進め、10月の教育研究協議会で発表した。

② 教育実習生の受け入れと指導

- a. 入門教育実習（1年生） 13名 7月5日、7月6日
- b. 観察参加実習（2年生） 65名 9月5日～9月9日
- c. 春期教育実習（3・4年生及び別科生） 24名 6月6日～6月17日
- d. 秋期教育実習（3・4年生及び別科生） 24名 10月24日～11月4日

③ 連携理念に基づく教育活動

長岡地区3校園の連携教育活動のシンボリック行事として取り組んできた「幼・小・中合同大運動会」を継続するとともに、火災や地震を想定した合同避難訓練を年1回実施している。こうした行事連携にとどまることなく、日々の教育活動における連携強化も図っている。

- a. 幼稚園との連携……諸行事における園児と児童の交流、職員の協力

- ・幼稚園年長組と小学校1・2年生の合同授業
- ・児童会行事等における園児、児童の交流
- ・昼休みの交流

- b. 中学校との連携

■「社会創造科」第4ステージで小・中児童生徒の授業交流

- ・小5年と中1年「長岡のブランド企業の秘密を探ろう」



昼休みに幼稚園児と楽しく交流

・小6年と中1年「大手通りのこれからを考えよう」

④ 大学・学部との連携

a. 「ようこそ大学の先生」……大学教員による児童向けの授業実践

・新潟大学教育学部 一柳智紀准教授 「授業とは」
6年1組と6年2組で授業。11月30日

・新潟大学教育学部 松井賢二教授 「キャリア教育」
4年1組と4年2組で合同授業。3月9日

b. 教育研究協議会における大学教員の授業公開

2名の大学教員が、研究会当日、授業公開された。

・新潟大学教育学部 足立幸子准教授 4年1組 国語「きいてよんでかんがえよう」

・新潟大学教育学部 松井賢二教授 ミニ講座「キャリア教育って、なあに？」

c. 学部生による指導補助

4、5、6年児童が、体育科・滝澤研究室の学生から、延べ22回分（学生2名で11回）にわたって体操の指導を受け、成果を12月3日の「体操発表会」（主催：新潟県体操研究会 新潟市鳥屋野総合体育館）で披露した。また、5、6年生のスノースクール（2月）では、体育科・大橋研究室の学生12名から、指導を受けた。

d. 5年生の親子大学訪問

大学・学部の協力を得て、キャリア教育の一環として実施した。保護者の参加多数（66名92%）。

6月13日（月）

⑤ 教育機関との連携

a. 県教育委員会との連携

小・中学校の初任者研修協力校として、提案授業及び授業協議会を開催した。

（6月小学校初任者19名、9月中学校初任者12名）

免許状更新講習会のゲストスピーカーとして協力

（国語、算数 教諭2名担当）

b. 長岡市教育委員会との連携

教育学部と長岡市教育委員会との協定に基づき、市内現職教員の研修を目的とした「教員サポート 錬成塾」の事業に、研修指定校として協力した。（特別活動、算数科）

長岡市教育センター主催の研修講座の講師として協力した。（国語科、算数科等）

c. 公立学校との連携

三条市立笹岡小学校校内研修会に講師として参加（算数2名、国語1名）

小千谷市立小千谷小学校校内研修会に講師として参加（算数2名）

新潟市立浜浦小学校校内研修会に講師として参加（算数1名）

⑥ 中国との交流

北京師範大学南奥実験校との交流（副校長、職員参加） 11月23日～26日

中国国内の公立学校での理科授業公開（教諭1名）

中国訪日団の受入、授業公開（全職員）、歓迎行事（湯沢グランドホテル）

⑦ 食育の推進

食に関する個別的な指導に重点を置くとともに、家庭科の授業で、T.T.で参加した。



小中合同で行った「社会創造科」



生田理事、五十嵐学部長の歓迎をいただいた大学訪問

学級指導、総合的な学習の時間や給食時のミニ講話等の場で食育の推進を図った。

a. 食に関する個別的な対応の取組

食への興味を引き出す「パクンパワーボックス」（食育に関する質問箱）の運用により、児童をはじめ保護者への個別指導を行った。

b. 授業実践

- ・ 1年1組 学級活動 「給食の準備を上手にするために」 5/25
- ・ 1年2組 学級活動 「給食の準備を上手にするために」 5/26
- ・ 2年1組 社会創造科 「大きくなあれ やさいさん」 7/7
- ・ 2年2組 社会創造科 「大きくなあれ やさいさん」 7/7
- ・ 3年1組 学級活動 「食べ物のグループ分けをしよう」 7/8
- ・ 3年2組 学級活動 「食べ物のグループ分けをしよう」 7/6
- ・ 4年1組 学級活動 「食べ物のグループ分けをしよう」 7/13
- 学級活動 「カルシウムアップ！大作戦」 10/17、10/20
- ・ 4年2組 学級活動 「食べ物のグループ分けをしよう」 7/11
- 学級活動 「カルシウムアップ！大作戦」 10/17、10/20
- 社会創造科 「ゴミを減らす活動」質問について回答 10月
- ・ 5年2組 家庭科 「家族と創る わが家の食生活」 5月資料提供
- ・ 中学校3年 社会創造科 「長岡野菜グループ・だるまれんこんチーム」
給食の献立作成に関わる（数回）11月～1月

c. 栄養教諭による講話等

- ・ 毎月1回程度 中学生への食育講話
- ・ 毎月19日の「食育の日」に食育放送（給食時）
- ・ 学級担任への食育資料提供

(2) 研究会、講演会等の開催

① 平成23年度初等教育研究協議会事前打合せ

- a. 日 時 2011年9月22日（木）
- b. 会 場 附属長岡小学校
- c. テーマ 「社会的な知性を培う」（第2年次研究）
- d. 内 容 全体会（研究全体概要の説明）及び 分科会
- e. 参加者 指導者、司会者、研究協力者

② 平成23年度初等教育研究協議会～文部科学省研究開発指定校～

- a. 日 時 2011年10月20日（木）
- b. 会 場 附属長岡校園（幼稚園、小学校、中学校）
- c. テーマ 「社会的な知性を培う」（第2年次研究）
- d. 内 容 全教科等の授業公開、授業協議会および教育講演会
 - 授業 ・12年間の学びをつなぐ一貫教育カリキュラムの開発
 - ・問題解決型学習における「協働型学習」の位置付け
 - ・新設教科「社会創造科」

○ 講演

文部科学省初等中等教育局主任視学官 田中 孝一 氏
演題「新教育課程は何を目指すか」



T.T.で家庭科の公開授業

=生きる力の育成、言語活動の充実自立・社会形成=]

○ 一貫教育フォーラム

テーマ「一貫・連携によって学校・子どもはこう変わる」

島根大学教育学部附属学校園学校主事 伊藤 英俊 氏

柏崎市立柏崎小学校教務主任 栗山 仁志 氏

新潟大学教育学部附属長岡校園研究開発部長 佐藤 満 氏

コーディネーター・基調講演

千葉大学教育学部教授 天笠 茂 氏

e. 参加者 県内外の教員、学生、学部教員、県・市町村教育委員会指導主事、当校教員等
約850名の参加者

③ 日本教育大学協会／全国国立大学附属学校連盟／全国国立大学附属学校PTA連合会主催
北信越地区総会・実践活動協議会 福井大会

a. 日 時 2010年9月29日（木）副校団長会（市内巡検、研修会・協議会等）

9月30日（金）教育活動・授業公開、協議会、全体会・総会等

b. 会 場 福井大学附属校園（幼稚園、小学校、中学校）、

「アオッサ」「ユアーズホテルフクイ」

（*副校団長会 恐竜博物館、「スキージャム勝山」）

c. テーマ 「附属校園の使命・役割をいかに果たすべきか」

d. 内 容 保育・授業公開、協議会および全体会・総会、情報交換会・懇親会

e. 参加者 300名 *校長、副校長、教諭、PTA同心役員等参加

(3) 研究報告等

① 紀要・研究誌等

a. 『研究紀要 社会的な知性を培う 第2年次研究』（年1回発行）

b. 『子どもと授業』（年2回発行 発行部数850部 購読者数約600名）

第67号 特集「新教育課程のねらいの実現に向けて 魅力あるカリキュラムの創造」

第68号 特集「新教育課程が目指しているもの

～一貫・連携によって学校・子どもはこう変わる～

② 教員の著書・論文・研究発表等（略）

(4) その他

① 危機管理に対する活動

a. 不審者侵入対応避難訓練（8年目）職員の対応訓練と児童の避難訓練

（指導・協力：長岡警察署生活安全係）

b. 緊急電話連絡・メール配信訓練

c. 防犯用携帯ベル支給（新入児童全員）

d. 水泳授業監視員の配置

② いじめ防止に関する活動

a. 学部教員との連携による教育相談体制の充実

③ 食に関する指導

a. 栄養教諭による食育相談の充実

④ PTA組織の活性化

a. 父親の参加を促す事業

「日曜参観」、「ふぞく百年の森整備作業（223名の参加申し込み）」、「地域懇談会」



大勢の父親が参加した日曜参観、
ふぞく百年の森整備作業

7.6 附属長岡中学校

1. 特色ある教育活動

(1) 文部科学省研究開発学校指定

平成22年度より、「社会的な知性を培う」を研究テーマとし、12年間の学びをつなぐ「一貫教育カリキュラム」の開発に着手した。子どもと子ども、子どもと地域とがともに学びを創りあげる「協働型学習」を核とし、新教科「社会創造科」を含めた各教科・領域によって「持続可能な社会」の形成者のはぐくみをめざし、研究を進めている。

<社会創造科>

「社会的な知性」の構成要素に含まれる4つの資質・能力として「自己推進力」「人間関係構築力」「問題解決力」「開発力」を設定し、それらをはぐくむための教科として「社会創造科」を新設した。

「異年齢協働探究型学習」では、校園内の児童生徒のみならず、企業、NPO、行政、地域の専門家等を交流相手や講師とするとともに、訪問先や学校等での学習において互恵関係を築き、「持続可能な社会」を実現するための活動を展開するカリキュラムを構築している。

(2) ユネスコスクール

ユネスコスクールとは、文部科学省が積極的に推奨し、ユネスコ憲章に示された理想を実現するための実践に取り組む学校を登録、認定するものである。本校では社会創造科における郷土長岡と大都市東京とを比較するテーマ追究学習（第1学年）と、比較対象を沖縄に広げた同様の追究学習（第2学年）を中心に取り組んでいる。生徒が設定した視点を基に、郷土と他地域との比較から「持続可能な社会」の在り方について、実態と課題、その解決方法について学習を深めている。

2. 教育研究協議会

(1) 平成23年度教育研究協議会

- ① 期 日 平成23年10月20日（木）
- ② 会 場 附属長岡校園（幼稚園、小学校、中学校）
- ③ テーマ 「社会的な知性を培う」（第2年次）
- ④ 内 容 授 業 社会創造科（小中合同授業）、各教科、領域
一貫教育フォーラム（島根大学教育学部附属小学校、柏崎小学校、長岡小学校）
コーディネーター 千葉大学教育学部 教授 天笠 茂氏
講演会 演題 新教育課程は何を目指すのか
講師 文部科学省初等中等教育局 主任視学官 田中 孝一氏
- ⑤ 参加者 県内外教員、学生、学部教員、県・市町村教育委員会指導主事、教育長、等
校園全体で、約1000人

3. 地域教育委員会との連携を図った教員研修への協力、研究成果の普及

(1) 教員の指導力向上を目指す市教育委員会への協力

長岡市内の現職教員の研修を目的とした「教員サポート連成塾事業（教育学部と長岡市教育委員会との協定による）」に対して授業研究研修実践校として協力した。（美術、保健体育）

(2) 小中一貫教育研究推進地域への情報発信、研究会参加

小中一貫教育研究を推進する十日町市・湯沢町・三条市の各教育委員会に対して情報発信することで、研究会当日、教育長、課長、地域住民、保護者等の視察に結びつけることができた。

8 外部資金

8.1 科学研究費助成事業

科学研究費助成事業は、大学等の研究機関に所属する研究者が個人またはグループで行う研究に対する補助金であり、競争的資金の形態により、文部科学省及び独立行政法人日本学術振興機構を通して交付される。

教育学部では、外部資金を導入して研究の活性化を図るため、科学研究費助成事業に積極的に申請を行っている。

現在、科学研究費助成事業の助成を受けている研究分野は、教育科学を始めとして、人文・社会科学、自然科学、体育学、芸術学など多岐にわたり、様々な研究分野を専門とする教員が所属している本学部の特徴を示している。

平成23年度における科学研究費助成事業の採択状況は下表のとおりである。

採択年度 (平成)	研究種目	研究代表者氏名	研究課題名
20	基盤研究 (C)	児 玉 康 弘	地方の課題を歴史的に考察させるための郷土人物教育内容開発研究
20	基盤研究 (C)	松 井 賢 二	大学生のキャリア発達に応じたキャリア形成支援プログラムの開発研究
21	基盤研究 (C)	高 橋 桂 子	出産前後の女性の就業選択行動の分析：「やりがい感」を中心に
21	基盤研究 (C)	上 石 圭 一	法曹人口論のポリティックスの歴史社会学的研究
21	基盤研究 (C)	神 村 栄 一	パチンコ遊技への病的な嗜癖を示す成人に対する集団認知行動療法の効果検討
21	基盤研究 (C)	長谷川 敬 三	コンパクトおよび非コンパクト等質空間上の複素構造についての研究
21	基盤研究 (C)	長 澤 正 樹	広汎性発達障害者のソーシャルスキル認識の解明と自己評価プログラムの開発
21	基盤研究 (C)	八 畝 友 広	テキスト学的視点による往来物の変容過程に関する研究
21	基盤研究 (C)	鈴 木 賢 治	結晶弾性異方性と微視的残留応力に関する研究
22	基盤研究 (C)	伊 藤 克 美	厳密くりこみ群によるゲージ論の研究
22	基盤研究 (C)	佐 藤 亮 一	レーダポーラリメトリによる地震被災住宅の高精度識別手法の開発およびその活用
22	基盤研究 (C)	世取山 洋 介	日米における新自由主義教育改革の教育法的小および教育制度論的研究
22	基盤研究 (C)	中 村 和 吉	水中における基質表面への洗剤分子吸着挙動
23	基盤研究 (C)	宮 蘭 衛	出前授業方式による学生の環境教育実践力育成－「多国間環境問題解決型授業」を事例に
23	基盤研究 (C)	小林 日出至郎	『イリアス』の運動競技における精神性に関する研究
23	基盤研究 (C)	石 垣 健 二	「身体教育（体育）によって育てる間身体性」の解明
23	基盤研究 (C)	足 立 幸 子	国際標準を反映した教員用読書力評価パッケージの開発
23	基盤研究 (C)	柳 沼 宏 寿	「映像メディアによる表現」の教育的効果に関する研究～日豪のシネリテラシーを基に～
21	若手研究 (B)	角 谷 聰	宋代詩文中の「三国志物語」を手がかりとした『三国志演義』形成過程の研究
21	若手研究 (B)	興 治 文 子	いつでも、どこでも、誰もが参加できるユビキタスラーニングを活用した理科教育の構築
21	若手研究 (B)	工 藤 起 来	アシナガバチ亜科におけるサテライト巣建設の進化
21	若手研究 (B)	小 野 映 介	埋蔵文化財情報を利用した高精度の地形発達史研究
22	若手研究 (B)	杉 澤 武 俊	テストデータへの階層的線形モデルの適用
23	若手研究 (B)	小 堀 彩 子	援助職の援助要請プロセスとバーンアウトとの関連の検討
23	若手研究 (B)	渡 邊 道 之	線形及び非線形ヘルムホルツ型方程式の漸近解析と逆解析
23	若手研究 (B)	堀 内 隆 行	20世紀前半期南アフリカのカラードとプリティッシュ・アイデンティティに関する研究
23	挑戦的萌芽研究	麓 慎 一	東アジアにおける中国海産物市場の形成とアイヌ社会

8.2 寄附金

寄附金は、民間企業、団体、個人等から学術研究の経費、教育・研究その他事業の奨励および支援または学生に給与または貸与する学資等として受け入れるものである。

平成23年度における寄附金の主な受入状況は下表のとおりである。

研究代表者	寄 付 者	目 的
鎌田 正喜	公益財団法人 内田エネルギー科 学振興財団	光エネルギーを利用する新規抗マラリア活性化合物の合成研究

8.3 受託研究および受託事業

受託研究および受託事業は、地方公共団体・民間等外部の機関からの委託を受けて、委託者の負担する経費を使用し、本学部の教員が業務として研究を行い、その成果を委託者に報告するものである。

平成23年度における主な受託研究および受託事業は下表のとおりである。

○受託研究

研究担当者	委 託 者	研 究 題 目
横山 知行	新潟県	教職員における精神的不調による病休等取得者の職場復帰支援に関する研究
篠田 邦彦	新潟市	高齢者に優しい歩行空間のあり方研究業務
宮蘭 衛	佐渡市	佐渡市環境教育副読本編集業務
高清水康博	中頓別町（北海道枝幸郡）	中頓別町内における新世代中頓別層の研究
高清水康博	独立行政法人 農業環境技術研究所	公害防止等試験研究「湿原流域の変容の監視手法の確立と生態系修復のための調和的管理手法の開発」
牛山 幸彦	財団法人 日本卓球協会	・ラバーの種類と打球圧による摩擦係数の変化 ・飛行中のボール回転数減衰に関する研究

○受託事業

事業担当者	委 託 者	事 業 題 目
長澤 正樹	文部科学省	平成23年度民間組織・支援技術を活用した特別支援教育研究事業
森下 修次	佐渡市	佐渡市着地型ツアープラン検証事業
足立 幸子	独立行政法人 教員研修センター	教員研修モデルカリキュラム開発

8.4 共同研究

本学部の教員が、地方公共団体・民間等外部の機関の研究者と対等の立場で共同して研究を行うものである。

平成23年度における主な共同研究は下表のとおりである。

研究担当者	共同研究相手方	研究題目
鈴木 賢治	財団法人 電力中央研究所	表面加工材の応力測定に関する研究

(巻末資料)

平成23年度 新潟大学教育学部入学状況

区 分		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
学校教育養成課程	学校教育コース	学校教育学専修	45	173	157	58	51
		教育心理学専修					
		幼児教育専修					
		特別支援教育専修					
	教科教育コース	国語教育専修	135	510	467	158	137
		社会科教育専修					
		英語教育専修					
		数学教育専修					
		理科教育専修					
		家庭科教育専修					
		技術科教育専修					
		音楽教育専修					
		美術教育専修					
	保健体育専修						
推 薦 入 学		40	89	89	40	40	
小 計		220	772	713	256	228	
学習社会ネットワーク課程 学習社会ネットワークコース		45	154	106	51	48	
生活科学課程 生活科学コース		15	96	94	27	18	
健康スポーツ科学課程		30	221	176	34	34	
ヘルスプロモーションコース		(10)					
スポーツ科学コース		(20)					
芸術環境創造課程	音楽表現コース	25	72	71	30	29	
	造形表現コース	20	71	52	23	23	
	書表現コース	15	54	53	16	15	
	小 計		60	197	176	69	67
合 計		370	1,440	1,265	437	395	

平成23年度新潟大学大学院教育学研究科受験・合格・入学者数

専攻	分野・専修	入学定員	志願者	受験者	合格者	入学者
学校教育	学校教育学分野	10人	14(5)	14(5)	8(2)	6(1)
	教育心理学分野		0	0	0	0
	臨床心理学分野		5	5	4	2
	特別支援教育分野		2	2	2	2
	幼児教育分野		2	2	1	0
	教育実践開発コース	10人	3	3	3	3
	小計	20人	26(5)	26(5)	18(2)	13(1)
教科教育	国語教育専修	32人	8(5)	7(5)	7(5)	6(4)
	社会科教育専修		8(2)	8(2)	6(2)	3(1)
	英語教育専修		6	6	4	4
	数学教育専修		3	3	3	3
	理科教育専修		6	6	6	5
	音楽教育専修		8(1)	8(1)	4	4
	美術教育専修		13(2)	13(2)	8(1)	8(1)
	保健体育専修	9	8	6	6	
小計	32人	61(10)	59(10)	44(8)	39(6)	
合計	52人	87(15)	85(15)	62(10)	52(7)	

平成24年3月卒業（修了）者の就職内定状況

(1) 教育学部（教育人間科学部含む）

平成24年3月31日現在

	卒業者数		進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率（%）				
	卒業者数	進学者数			公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等
学校教員養成課程（学校教育課程）	214	28	15	8	132	31	171	8	120	28	156	1000	90.9	90.3	91.2
学習社会ネットワーク課程	47	1	6	4	1	35	40	4	1	30	35	1000	100.0	85.7	87.5
生活環境科学課程	17	2	1	0	0	14	14	0	0	13	13	-	-	92.9	92.9
健康スポーツ科学課程	33	7	4	4	5	13	22	4	4	13	21	1000	80.0	100.0	95.5
芸術環境創造課程	60	8	7	0	9	36	45	0	7	32	39	-	77.8	88.9	86.7
計	371	46	33	16	147	129	292	16	132	116	264	1000	89.8	89.9	90.4

(2) 大学院協医学研究科

注）平成23年9月卒業者を含む

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率（%）					
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
学校教育専攻	16	1	1	1	8	5	14	1	7	4	12	1000	87.5	80.0	85.7
教科教育専攻	42	0	6	0	31	5	36	0	30	5	35	-	96.8	100.0	97.2
計	58	1	7	1	39	10	50	1	37	9	47	1000	94.9	90.0	94.0

(3) 養護教諭特別別科

	修了者数	進学者数	その他	就職希望者数			就職内定者数			就職内定率（%）					
				公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計	公務員	教員	企業等	計
養護教諭特別別科	48	2	2	4	18	22	44	4	14	22	40	1000	77.8	100.0	90.9

教育学部附属学校生徒数

23. 5. 1現在

校 園 名		学級数	1学級定員	収容定員	現員
幼 稚 園	3年保育	3	35	90	73
新 潟 小 学 校		12	40	480	469
	複式学級	3	16	48	48
長 岡 小 学 校		12	40	480	426
新 潟 中 学 校		9	40	360	357
長 岡 中 学 校		9	40	360	354
特別支援学校	小 学 部 (複式学級)	3	6	18	18
	中 学 部	3	6	18	18
	高 等 部	3	8	24	29
合 計		57		1,878	1,792

新潟大学教育学部